

# 1. 現状把握

## 1) 現状の整理

### (1) 藤原町の概要

#### 概要

- ・ 藤原町は栃木県の北西部に位置する。町の北側は福島県に接し、西は栗山村、東側は黒磯市・塩原町・塩谷町、南側は今市市と接する。
- ・ 鬼怒川・男鹿川に沿った会津西街道の宿場町としてひらけ、古い歴史を持つ日光国立公園の中核的な温泉保養地として発展してきた。
- ・ 明治 22 年の村制施行により「藤原村」が誕生し、昭和 10 年の町制施行により「藤原町」となった。昭和 30 年には三依村と合併した。
- ・ 平均気温は宇都宮、東京と比べて 4~6 程度低く年間における基本格差も大きい。
- ・ 南北に細長い形状であり、町土の 9 割以上を山林が占め、男鹿川、鬼怒川にそって主な集落や市街地が形成されている。
- ・ 鬼怒川に沿って南北に細長く形成されている市街地は、東西を急斜面の産地に挟まれ平坦地に乏しい。
- ・ 温泉の町という特殊性から、市街地においてホテル等の大型建築物と一般住宅が混在している。
- ・ 山岳地や起伏に富んだ地形、竜王峡などの渓谷美、鬼怒川・川治温泉など、森林・渓谷・温泉が観光資源となっている。また、周辺にはテーマパークなど豊富な観光施設が集積する。

町面積：27,227ha  
東西 17.10km、南北 40.25km  
標高：最高 762.13m、最低 281.47m  
気温：年平均約 9  
最高 22、最低 -6 程度。  
人口：11,379 人  
増加率 -1.58%  
世帯：4,879 世帯



藤原町位置・アクセス  
出典：藤原町ホームページ

## アクセス

### 鉄道

- ・東武鉄道鬼怒川線：浅草駅から鬼怒川温泉駅まで特急約 2 時間、2800 円
- ・野岩鉄道会津鬼怒川線：新藤原駅から会津高原駅まで約 35 分（会津線、JR 只見線経由で約 2.5 時間、3040 円）
- ・東北新幹線：東京駅から JR 日光線、東武鬼怒川線経由で鬼怒川温泉駅まで 2.5 ~ 3 時間、5160 円

### 道路

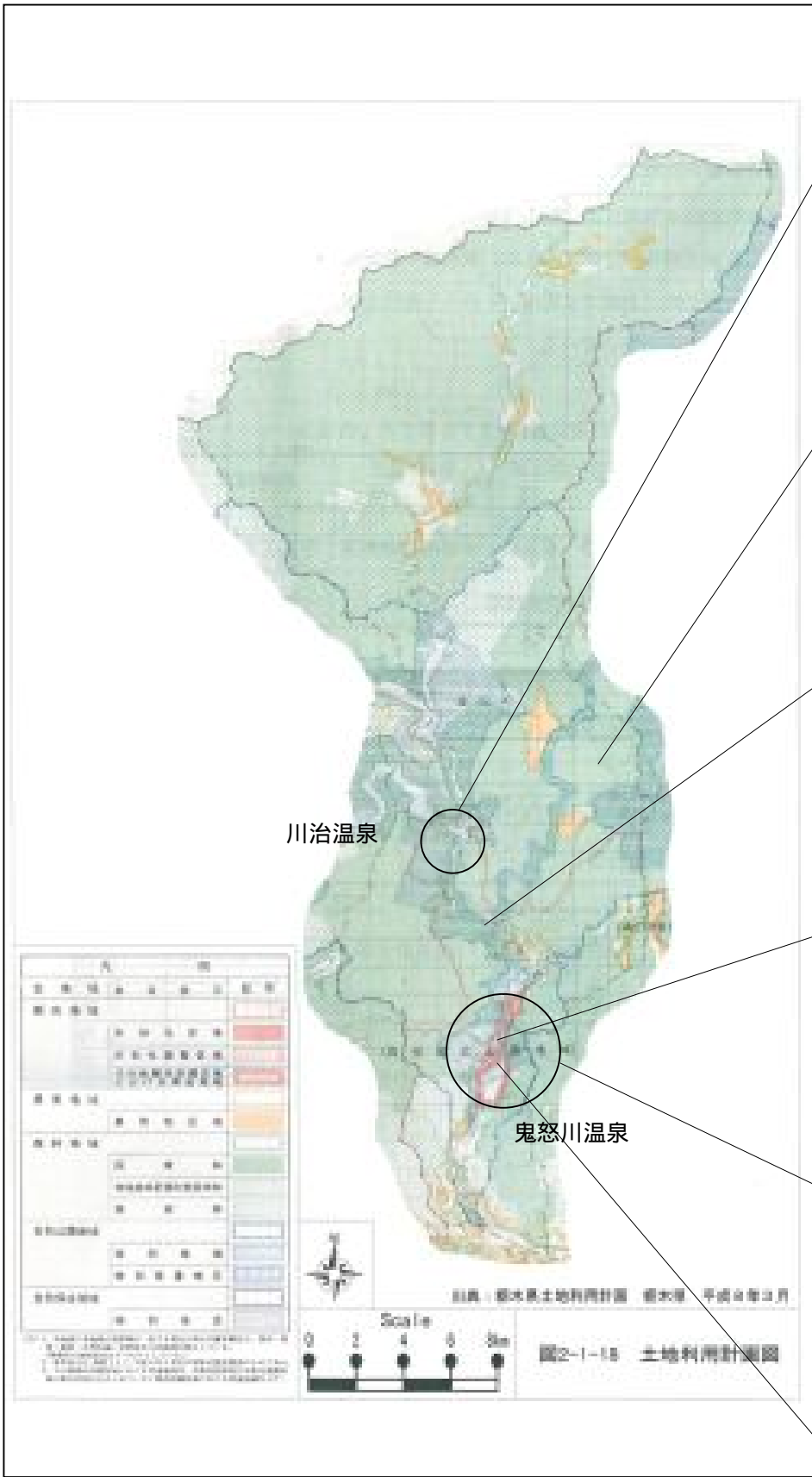
- ・川口 JCT より東北自動車道宇都宮、日光宇都宮道路、国道 121 号経由で約 3 時間
- ・東北自動車道矢板 I.C. 国道 461 号経由、東北自動車道西那須野 I.C. 国道 400 号、日塩もみじライン経由

### 高速バス

- ・福島空港、日光鬼怒川地区間一日 3 往復、約 2.5 時間、3000 円（東武バス日光、福島交通、関東自動車との共同による社会認証実験、土日のみ）

### 空港

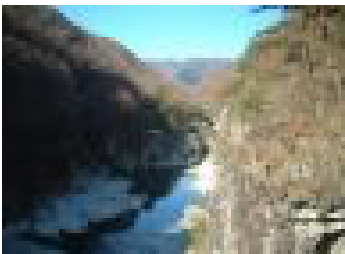
- ・福島空港からソウル・上海に各週 3・週 1 便。国内は札幌・大阪・福岡・沖縄便。



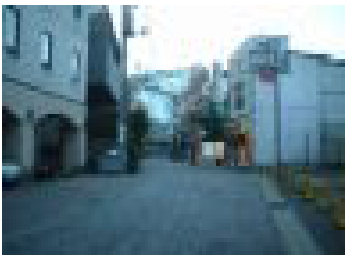
川治温泉 (野岩鉄道ホームページより)



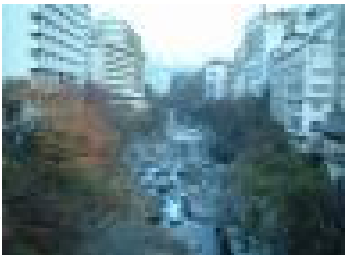
鶏頂山方面を望む



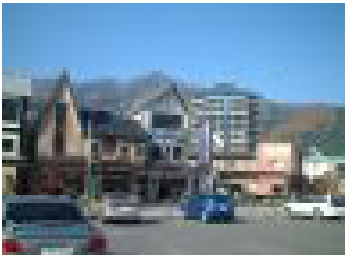
竜王峡の溪谷景観



中心市街地 (本町)



鬼怒川温泉

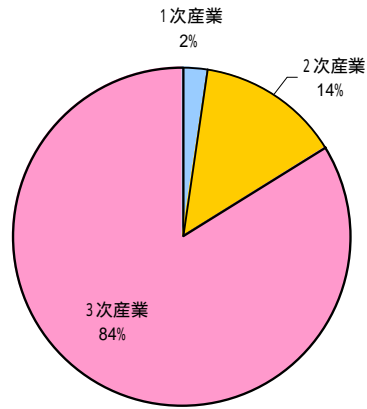


鬼怒川温泉駅前

藤原町全体土地利用計画図 (出典: 藤原町都市計画マスタープラン、H13.9)

人口  
産業別人口割合

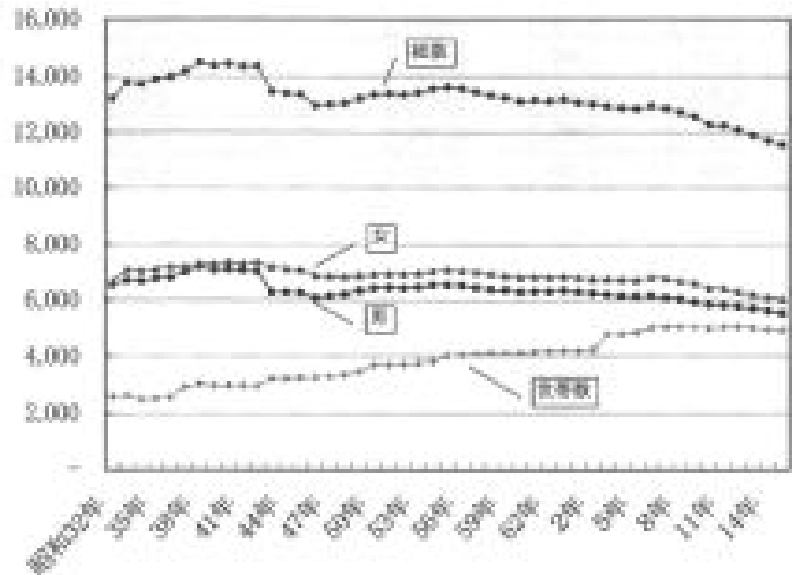
- ・第1次産業、第2次産業、第3次産業の割合はそれぞれ、2.4%、13.6%、83.9%となっており、町の経済活動における観光産業の影響が非常に高い。



産業別人口割合  
出典：「都市データパック 2004」東洋経済新報社

人口・世帯数の変化

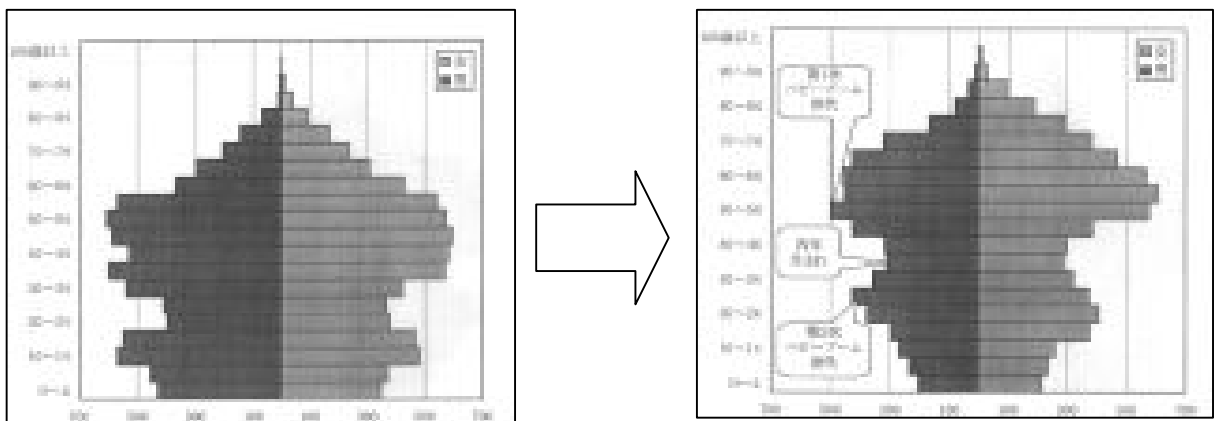
- ・人口は昭和38年の14,187人をピークに減少し、現在は11,562人となっている（H15.4.1現在）
- ・なお、将来人口フレームは平成17年時点で、13,000人（第6次藤原町振興計画（H13.3）12,000人藤原町都市計画マスタープラン（H13.9）と設定されている。



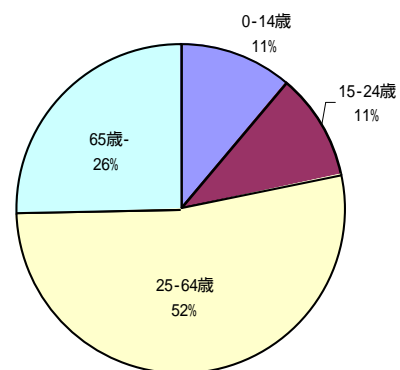
住民基本台帳人口・世帯数  
出典：平成15年版藤原町統計書

## 年齢別人口の変化

- ・0～14歳の年少人口の減少は著しく、平成8年・12年比較で12.1%減となっている。65歳以上の高齢人口は増加しており、同比較で11.0%増となっている。
- ・なお、昭和60年時点での高齢化率（65歳以上）は11.1%、平成12年時点での高齢化率は20.9%である。（平成12年の日本全体の高齢化率は16.7%となっている「高齢化白書」）



昭和60年、平成12年国勢調査の人口ピラミッド  
出典：平成15年版藤原町統計書

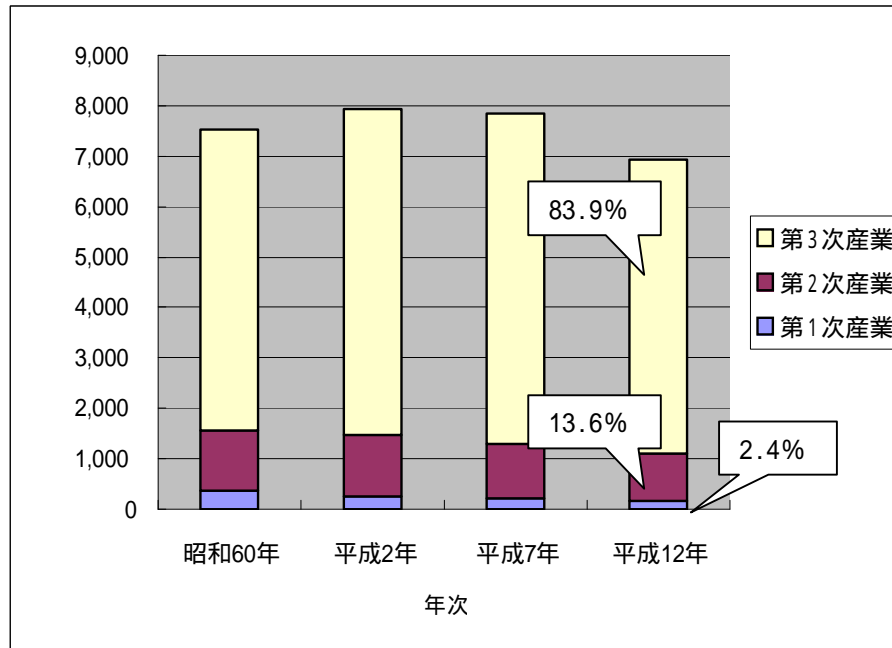


年齢別人口割合  
出典：「都市データパック 2004」東洋経済新報社

## 産業

### 産業別人口の変化

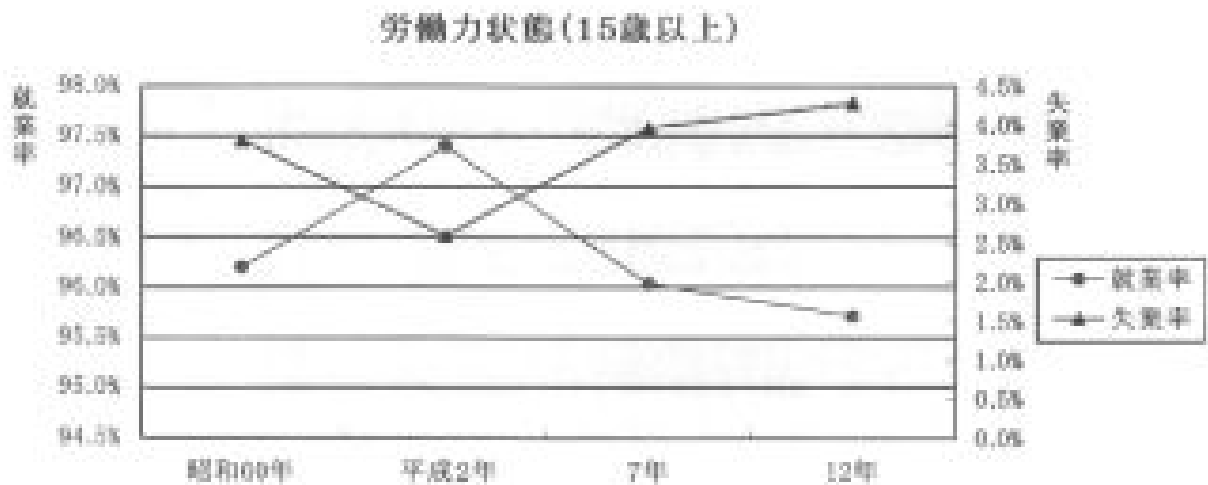
- ・第3次産業に特化した観光地としての性格がうかがえる。
- ・なお、第3次産業の約24%を「卸売・小売・飲食店」、約65%をサービス業が占める。



住民基本台帳人口・世帯数  
出典：平成15年版藤原町統計書

### 労働力状態

- ・なお、平成12年の完全失業率は日本全体平均で4.7%、栃木県平均で4.4%となっている（総務省統計局労働力調査、県平均は試算値）



住民基本台帳人口・世帯数  
出典：平成15年版藤原町統計書

## (2) 鬼怒川・川治温泉の概要

### 概要

- ・「関東の奥座敷」と称される関東屈指の大温泉郷。現在は鬼怒川沿いに観光施設、商業施設が集積し、その外縁が住宅地となっている。
- ・鬼怒川温泉は1691年（元禄4年）、川治温泉は1722年（享保8年）に発見される。当時の鬼怒川温泉は「滝の湯、下滝温泉」と呼ばれており鬼怒川左岸の滝村から湯が沸いていた。1869年（明治2年）、滝の湯の対岸に「藤原温泉」が発見される。
- ・1915年（大正4年）に下野軌道が開通し、1921年（大正9年）には下野電鉄として路線が電化され藤原・今市間が開通。1927年（昭和2年）には昭和自動車商会が今市・鬼怒川間のバス路線営業を開始。1929年（昭和4年）には東武鉄道東武日光線が開通、東京と日光が結ばれる事で、観光客が飛躍的に増加し始める。
- ・1927年（昭和2年）には、2つの温泉を総称して「鬼怒川温泉」と名称を改め、1931年（昭和6年）には「下滝駅」も「鬼怒川温泉駅」と改称される。1935年（昭和10年）東武鉄道により浅草・鬼怒川温泉間の特急電車の運転が開始された。1986年（昭和61年）には野岩鉄道会津鬼怒川線が開通し、浅草から会津田島までが連結された。1964年（昭和39年）に「鬼怒川温泉駅」が現在の場所に移転した。
- ・1960年（昭和35年）にはロープウェイが建設され、1969年（昭和44年）には鬼怒川ライン下りの営業が開始されるなど、レジャー施設による観光開発が進んできた。近年は東武ワールドスクエア、日光江戸村、日光サル軍団、3D宇宙・恐竜館など、国道121号線沿いにテーマパークが集積している。また、1999年（平成11年）に「日光の社寺」が世界遺産に登録された。
- ・泉質は単純アルカリ泉で無色透明・無味無臭、効能は肩こり、腰痛、リュウマチ、神経痛、美肌、疲労回復等。

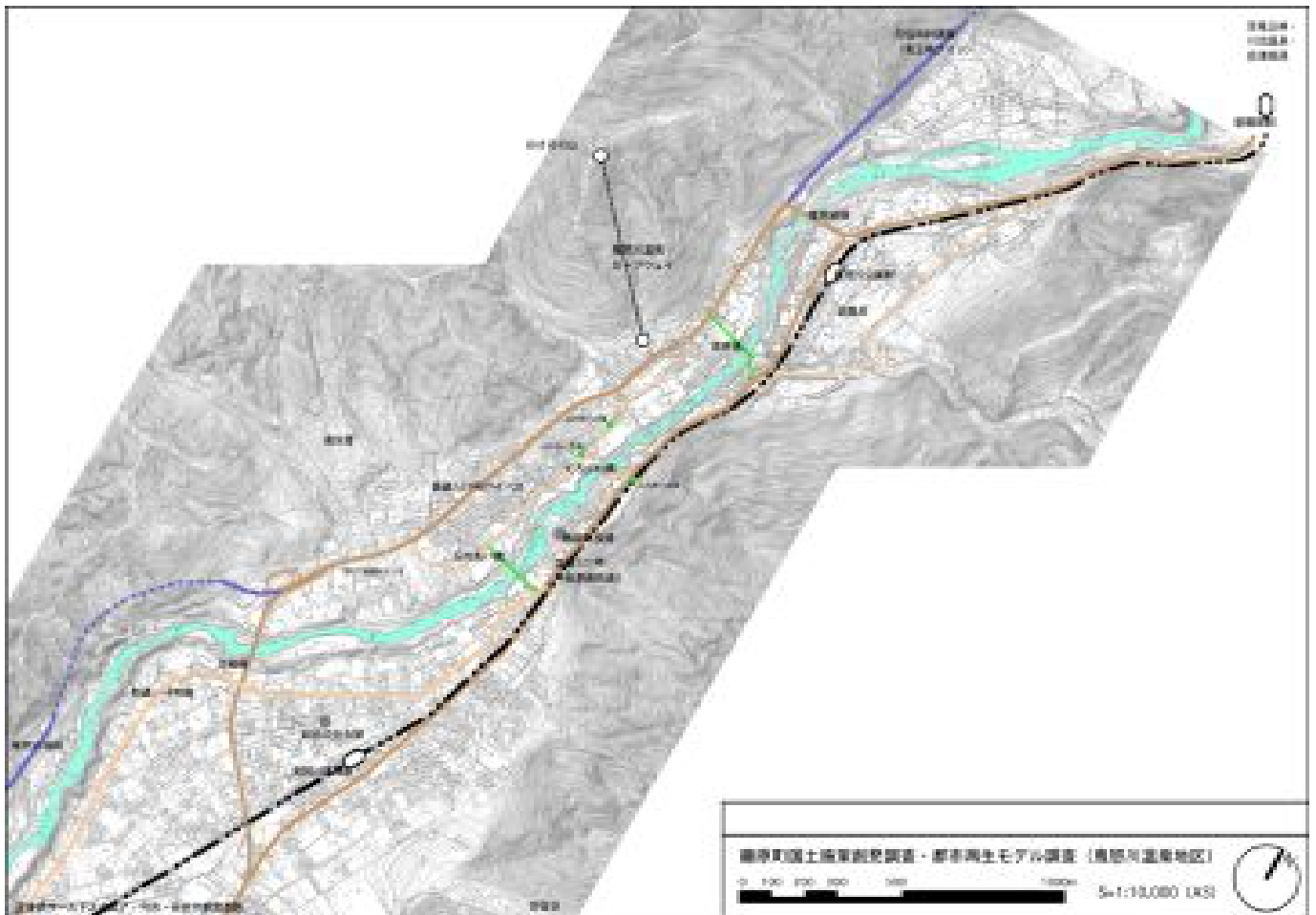


大正15年頃、くろがね橋より川上を望む

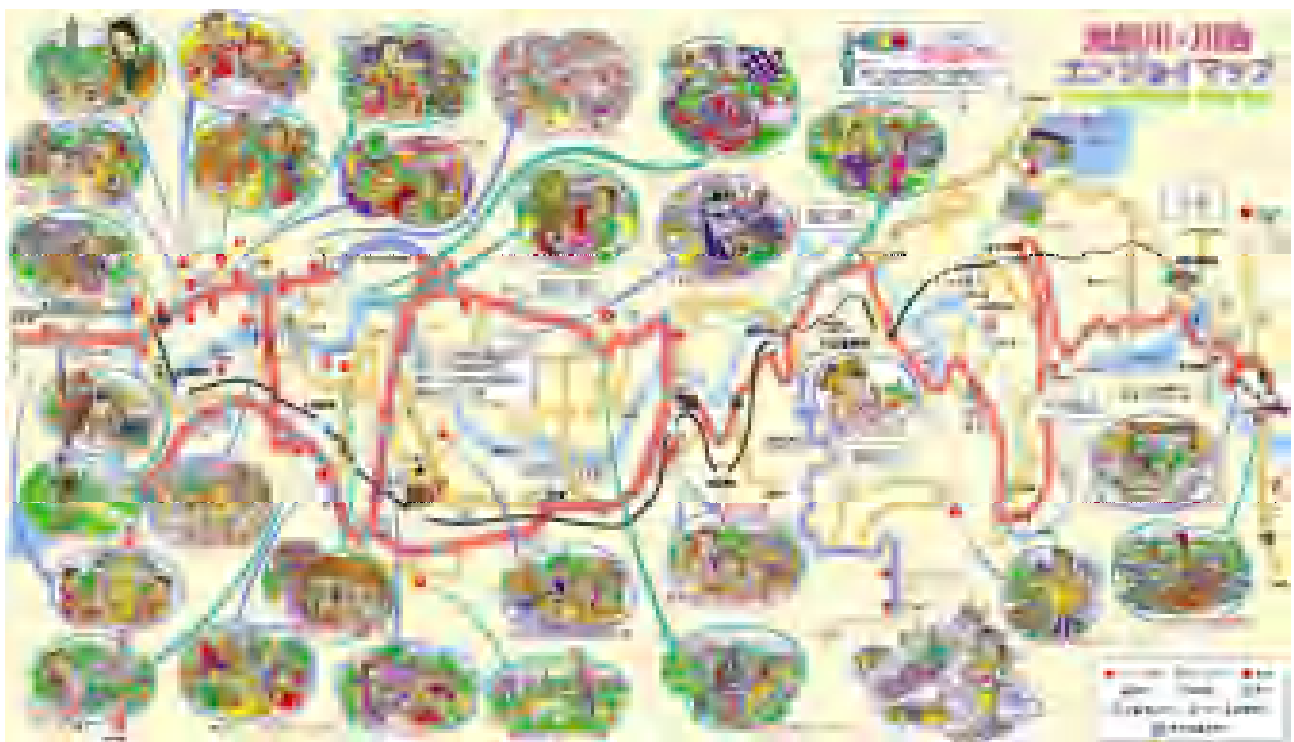


昭和8年頃、鬼怒川温泉市街地

出典：「週刊 日本の名湯 No.28」2004、昭文社



鬼怒川温泉市街地マップ



周辺観光資源マップ

出典：「SPAK 遊びしるべ 鬼怒川・川治温泉パーフェクトWEBガイド」ホームページ



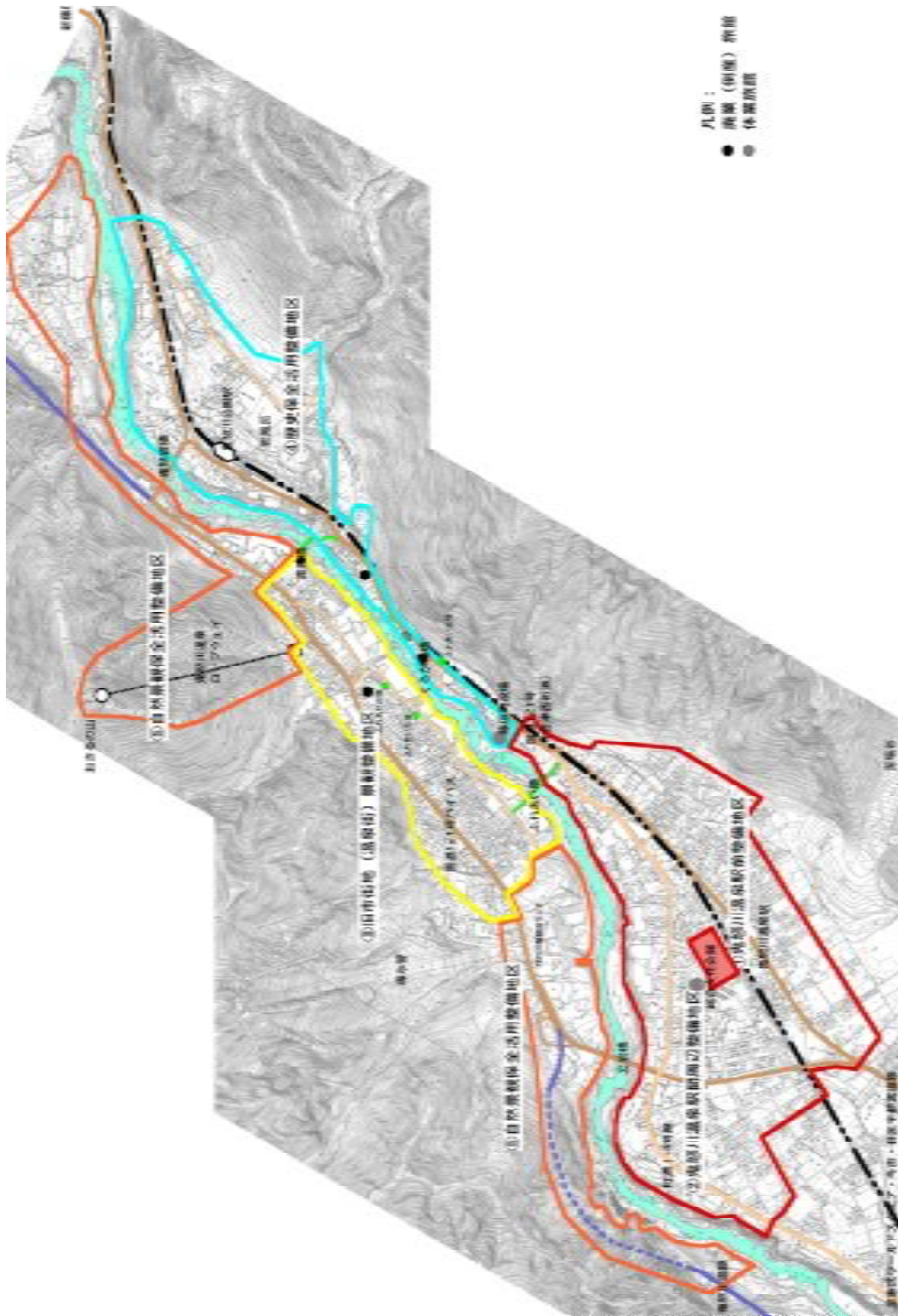
鬼怒川温泉ガイドマップ



# 都市計画道路・用途地域の状況



藤原町（鬼怒川温泉）地域再生にかかるゾーニング（案）



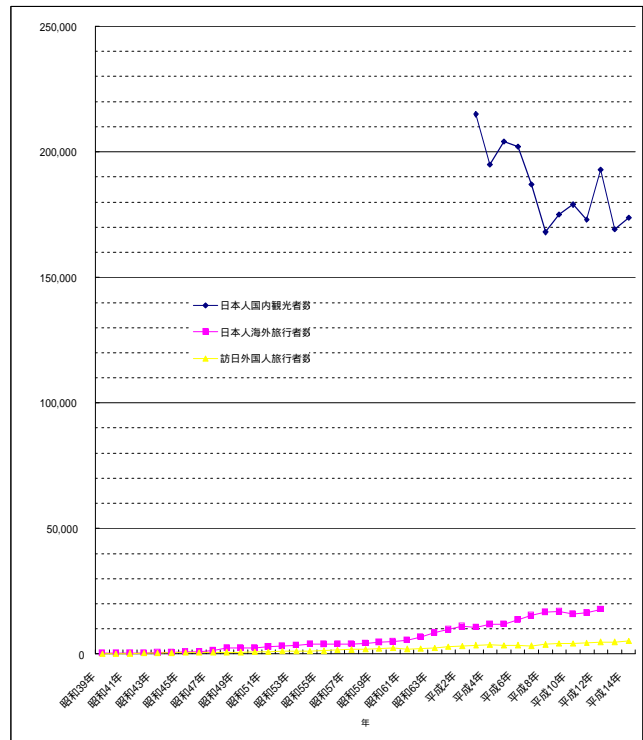
### (3) 観光の動向 日本の観光動向

#### 宿泊観光客数

- ・国内観光客数は、近年低下してきたが、直近では下げ止まり傾向が見られる。
- ・一方で、日本人海外旅行者数、訪日外国人旅行者数は増加を続けている。

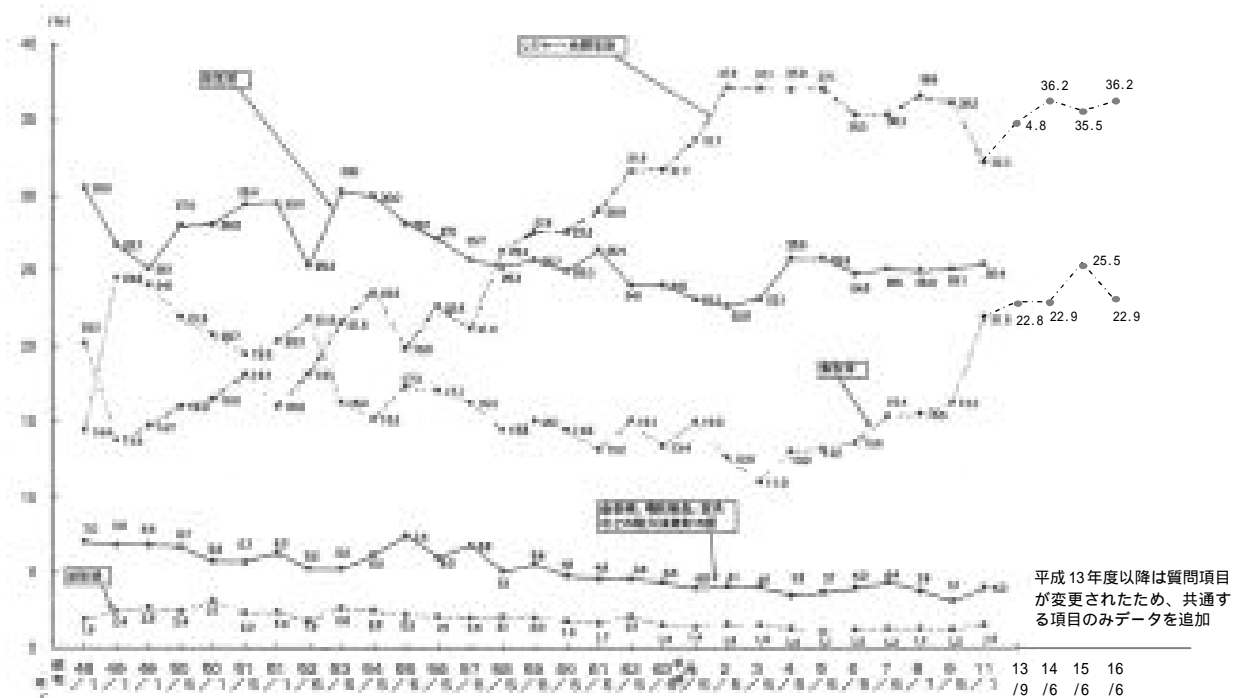
日本人国内観光者数、日本人海外旅行者数、訪日外国人旅行者数の推移

出典：国土交通省総合政策局観光部集計による、ただし国内観光者数の平成8年以前はウェブによる観光白書等の数値、平成13年以降は(株)JTB推計による変化率を適用



#### 今後の生活の力点

- ・「レジャー・余暇生活」は依然として高い割合を占めている。
- ・近年では「食生活」の割合が急増している



#### 今後の生活の力点の推移

出典：「国民生活に関する世論調査(平成11年1月調査)」総理府

## 宿泊観光旅行の志向性変化

- ・「平成13年度観光の実態と志向」より、昨今の宿泊観光旅行に関する傾向を抜粋。

宿泊観光旅行の「目的」	見物・行楽	24.3%	慰安旅行	19.0%	温泉・湯治	18.8%
	「慰安旅行」は減少、「温泉・湯治」は増加傾向					
宿泊観光旅行の「行動」	温泉浴	50.7%	自然の風景をみる	44.2%	名所・旧跡をみる	31.5%
	平成8年以降、「温泉浴」がトップ					
宿泊観光旅行を「しなかった理由」	時間的余裕のなさ	42.1%	経済的余裕のなさ	28.0%	なんとなく	22.5%
宿泊観光旅行の「移動手段」	自家用車	49.8%	バス(路線・貸切)	31.1%	鉄道(JR・私鉄)	29.9%
	鉄道は昭和47年の65.6%をピークに減少が続く					
旅行をした時の「不満」	混雑した	31.0%	料金が低い	( )	食事が悪い	7.6%
	の内訳：観光施設(15.9%)・飲食(14.3%)・土産(11.0%)					
宿泊観光旅行に出かける際の「参考」	友人・家族の話	42.4%	ガイドブック	39.5%	パンフレット	35.7%
	「インターネット」は第10位(11.2%)					
宿泊観光旅行は「個人型」の傾向	・旅行会社などの募集团体に参加しなかった人はほぼ昭和61年より一定(72.1%) ・家族・友人知人等との「個人旅行」の割合は62.1%(昭和61年は52.9%)。					

## 平均的宿泊観光客像(実態・希望)

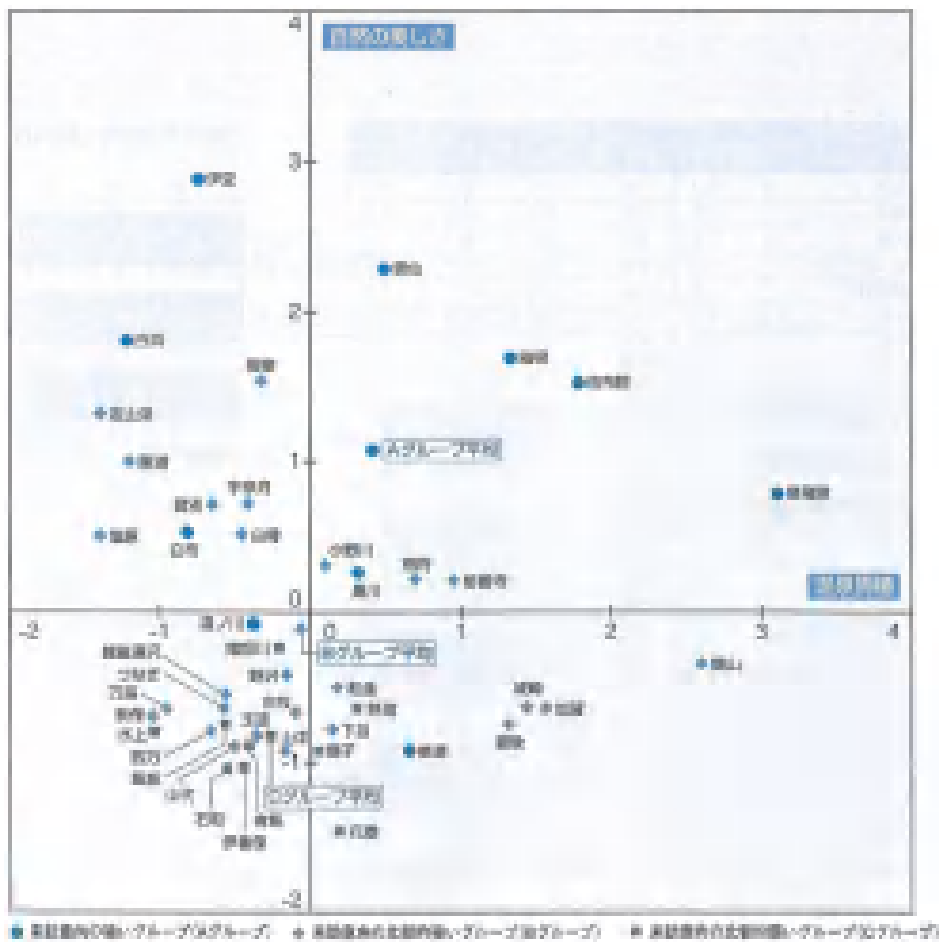
- ・実態に比べて「もっと旅行したい」要望はある。
- ・「目的」として「慰安旅行」は意識はされていないが実態としてはかなりの割合を占める(ただし減少傾向)。
- ・温泉、自然風景、名所旧跡などの行動は、実態、希望とも高い。
- ・同行者は家族、友人など「個人旅行」への傾向が高い。
- ・利用交通機関はやはり自家用車が最も高い(一方で混雑に対する不満も高い)。

	平成13年度宿泊観光レクリエーションの実態	今後1年間の宿泊観光レクリエーションの希望
1)参加率	55.0 %	72.8 %
2)参加回数	全体平均 1.18 回 参加者平均 2.15 回	2.16 回
3)実施月	ピーク(8月) 15.5 %	秋 38.2 % 夏 19.6 %
4)目的地	県内 16.1 % 県外 81.2 %	
5)出発日	土・日・祝 32.0 % 平日 36.7 %	
6)主な目的	見物行楽 24.3 % 慰安旅行 19.0 % 温泉湯治 18.8 %	23.8 % 28.8 %
7)行動(複数回答)	温泉浴 50.7 % 自然の風景を見る 44.2 % 名所・旧跡を見る 31.5 %	66.0 % 61.9 % 38.8 %
8)同行者	家族 36.4 % 友人・知人 31.2 % 家族と友人知人 11.5 %	
9)同行人数	2~3人 26.6 % 4~5人 20.7 %	
10)利用交通機関	自家用車 49.8 % 鉄道 29.9 % 貸切バス 24.0 %	
11)宿泊数(平均)	1.54 泊	1.76 泊
12)旅行費用	総費用 39,650 円 宿泊費( ) 14,650 円 個人宿泊観光旅行の数値	37,810 円 11,240 円

出典：「平成13年度観光の実態と志向」

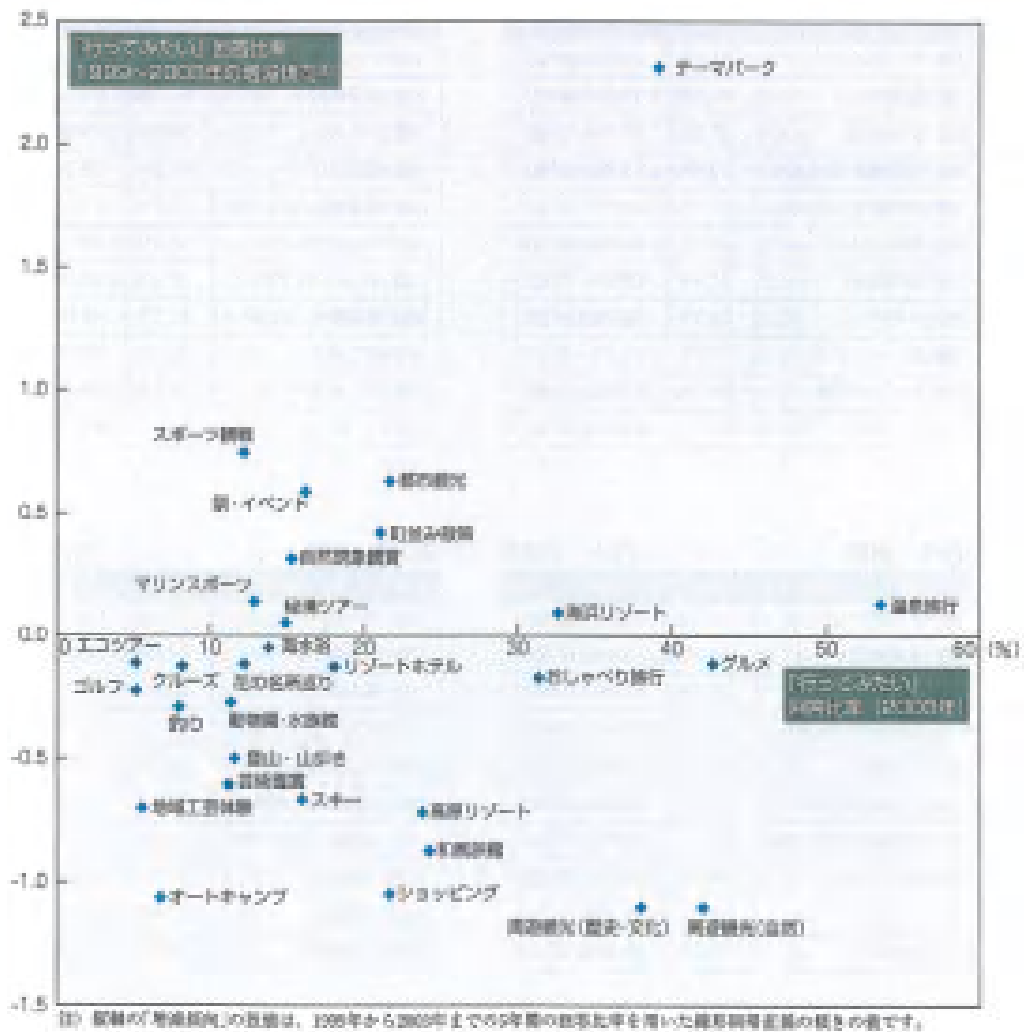
## 旅行タイプのイメージから見た温泉地

- ・国内旅行は、減少傾向。
- ・温泉に対する根強い人気。自然を見る、買い物・飲食、名所・旧跡などが続く。
- ・年代別では、若年層はテーマパーク、海浜リゾート、グルメ、高齢層では自然、歴史・文化などが続く。
- ・近年の傾向としては、スポーツ観戦、祭・イベント、都市観光、街並み散策などが増加傾向にある。
- ・スポーツ（スキー、テニスなど）ドライブなどは減少傾向にある。
- ・温泉地としては、温泉情緒と自然の美しさを兼ね備えたところが伸びている。

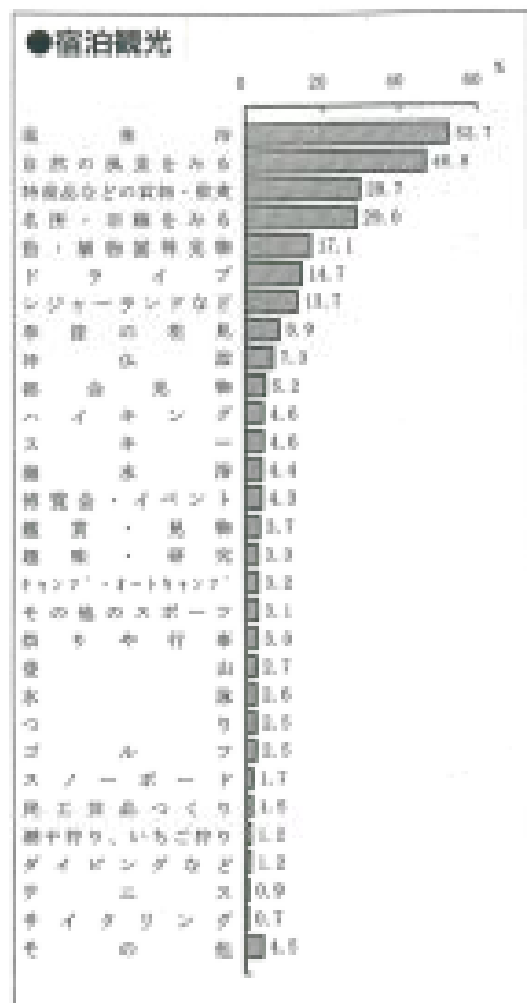
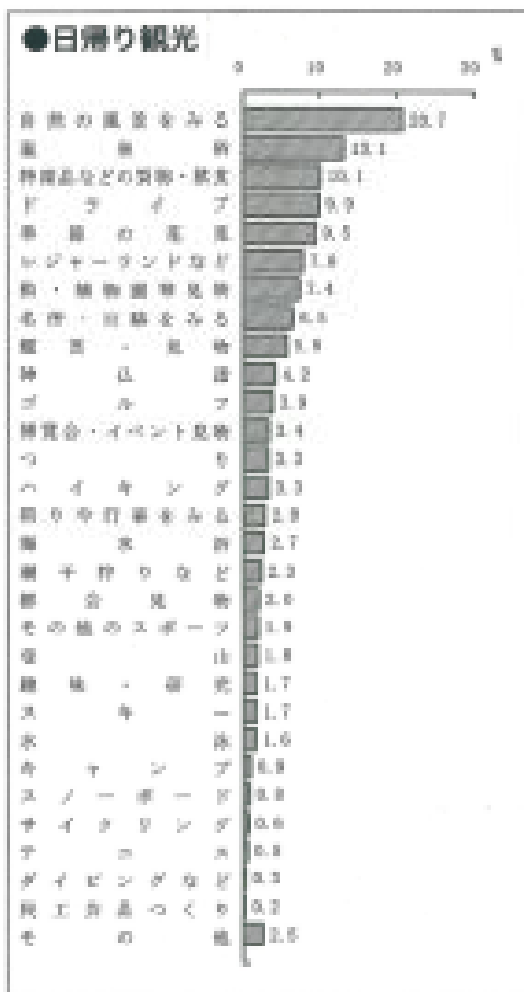


観光のイメージ	観光客が求める観光地イメージ
温泉情緒	温泉がおいしい/独特の温泉気がある/歴史や文化が素晴らしい/ 街や自然環境や特産品がある
自然の美しさ	自然が豊か/美しい/物に魅力がある/温泉が心地よい/ 温泉がおいしい/温泉がおいしい/温泉がおいしい

イメージによる温泉地のポジショニング  
 出典：「旅行社動向 2004」(財)日本交通公社



行ってみたい旅行タイプ  
出典：「旅行社動向2004」(財)日本交通公社



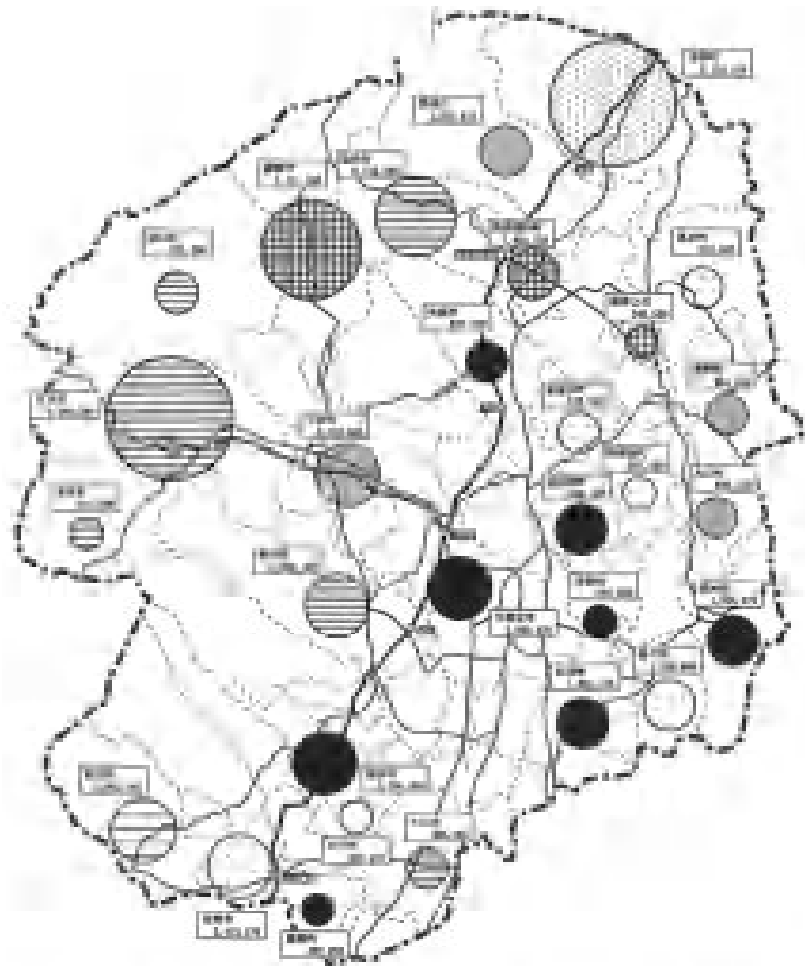
旅先での行動

出典：「平成 15 年度版観光の実態と志向」(社)日本観光協会



栃木県の観光動向  
観光入込の状況

- ・ 県北部の宿泊型の観光地域の入り込みは減少傾向。代わって県南部の日帰り型  
ので増加傾向。
- ・ 栃木県の選択理由は、距離的に近い、交通の便が良い、お気に入りの場所がある、  
など。
- ・ 旅行目的は、温泉、美しい自然が高く、宿泊では保養・休息、おいしい食べ物、  
日帰りでは季節の花、祭・イベントなどが続く。
- ・ 同伴者は、家族が過半。職場は減少。
- ・ 交通手段は、自動車中心であるが、宿泊の鉄道利用が多く、かつ伸びている。



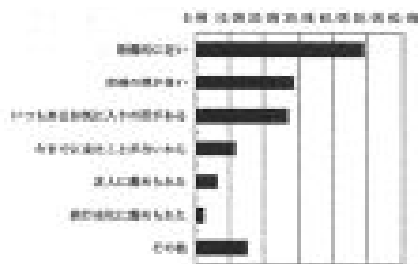
栃木県の観光入込客数の分布と推移  
出典：「日光都市圏総合都市交通体系調査，H12.3」栃木県日光土木事務所

観光客の地域別割合	観光客の性別
関東圏	男性
東北圏	女性
中部圏	その他
関西圏	
九州圏	

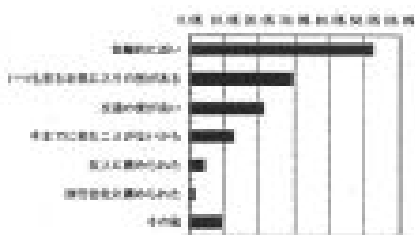
観光客の年齢別割合		観光客の職業別割合	
10代	11代	学生	主婦
20代	30代	会社員	その他
40代	50代		
60代	70代		

資料：「平成10年度栃木県観光客数調査結果」栃木県観光課  
注：掲載数は平成9年10月1日時点の平成10年の観光客数に占める割合を示す

【平成10年観光客入込数20万人以上の市町村】

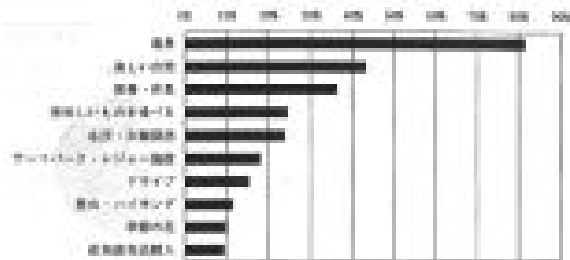


【図 100】 n=9, 420

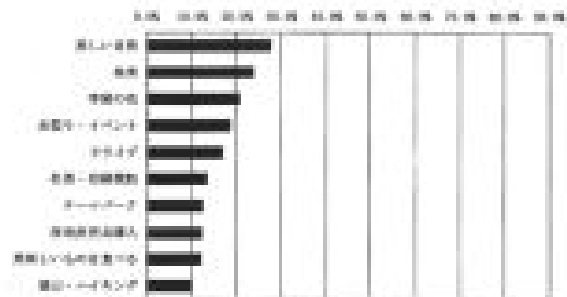


【図 101】 n=9, 370

観光地選択の理由



【図 102】 n=9, 420



【図 103】 n=9, 370

旅行の目的

	自分一人	家族・親戚	友人・知人	職場の同僚	学校の団体	サークルの仲間	その他(団体など)	無回答
今回調査(全体)	4.2	66.5	18.9	2.9	0.5	2.5	3.7	0.8
平成14年度調査	11.2	65.7	14.9	2.8	—	—	3.6	1.8
平成5年度調査	3.7	48.9	28.8	11.9	1.1	2.3	7.1	—

同伴者

	自家用車	鉄道	観光バス	貸し切りバス	路線バス	宿泊施設の送	直通バス	タクシー	レンタカー
今回調査(全体)	69.5	21.4	5.8	—	4.1	7.6	5.2	0.7	3.1
平成14年度調査	67.9	27.9	3.2	—	—	4.0	—	—	1.8
平成5年度調査	60.4	21.4	—	—	15.8	6.7	—	—	0.2
平成元年度調査	69.9	11.8	—	—	14.6	—	—	—	—
昭和62年度調査	68.9	12.2	—	—	18.8	—	—	—	—

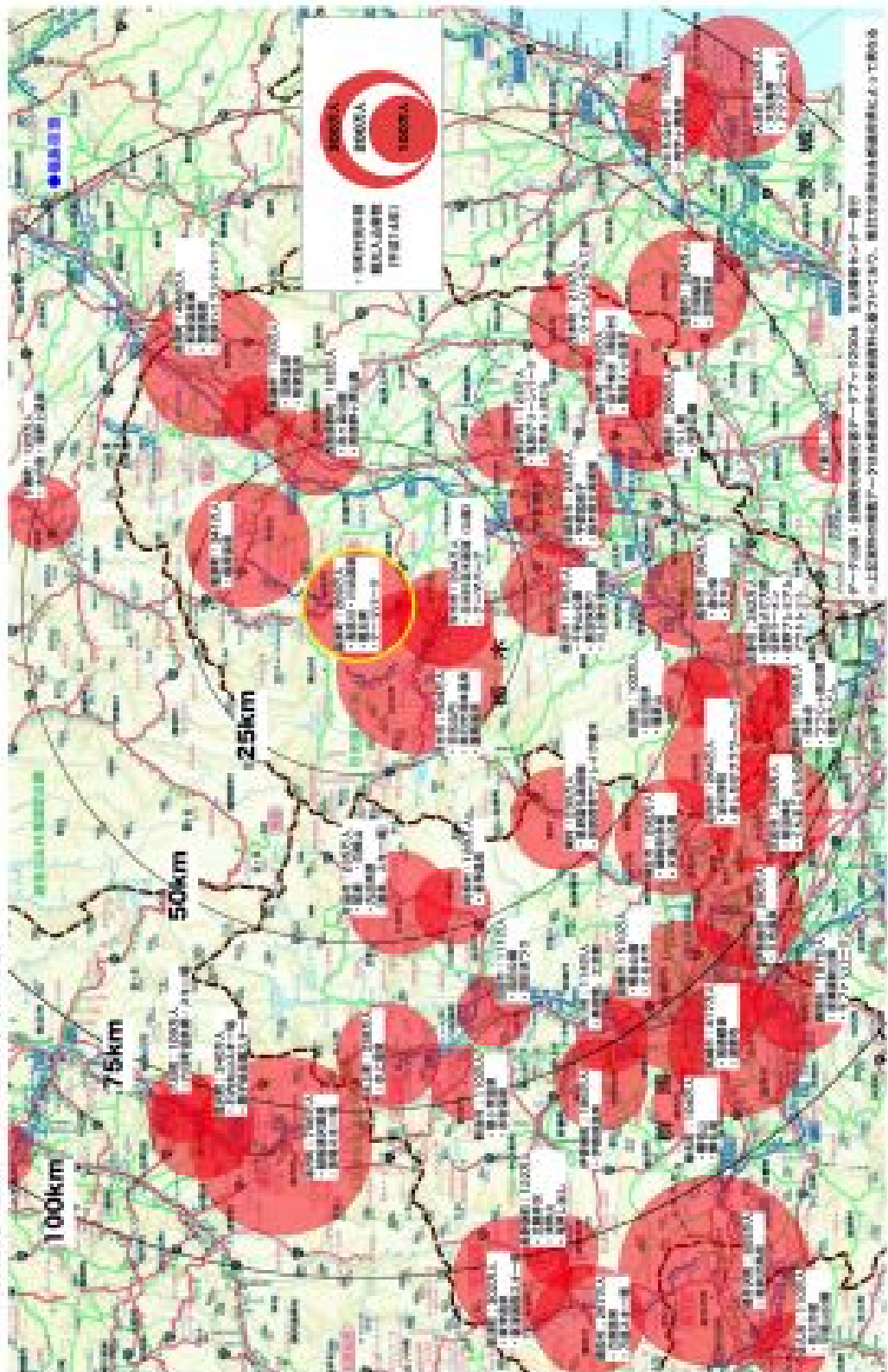
利用交通機関

出典：「平成15年度栃木県観光動向調査」栃木県商工労働観光部観光課

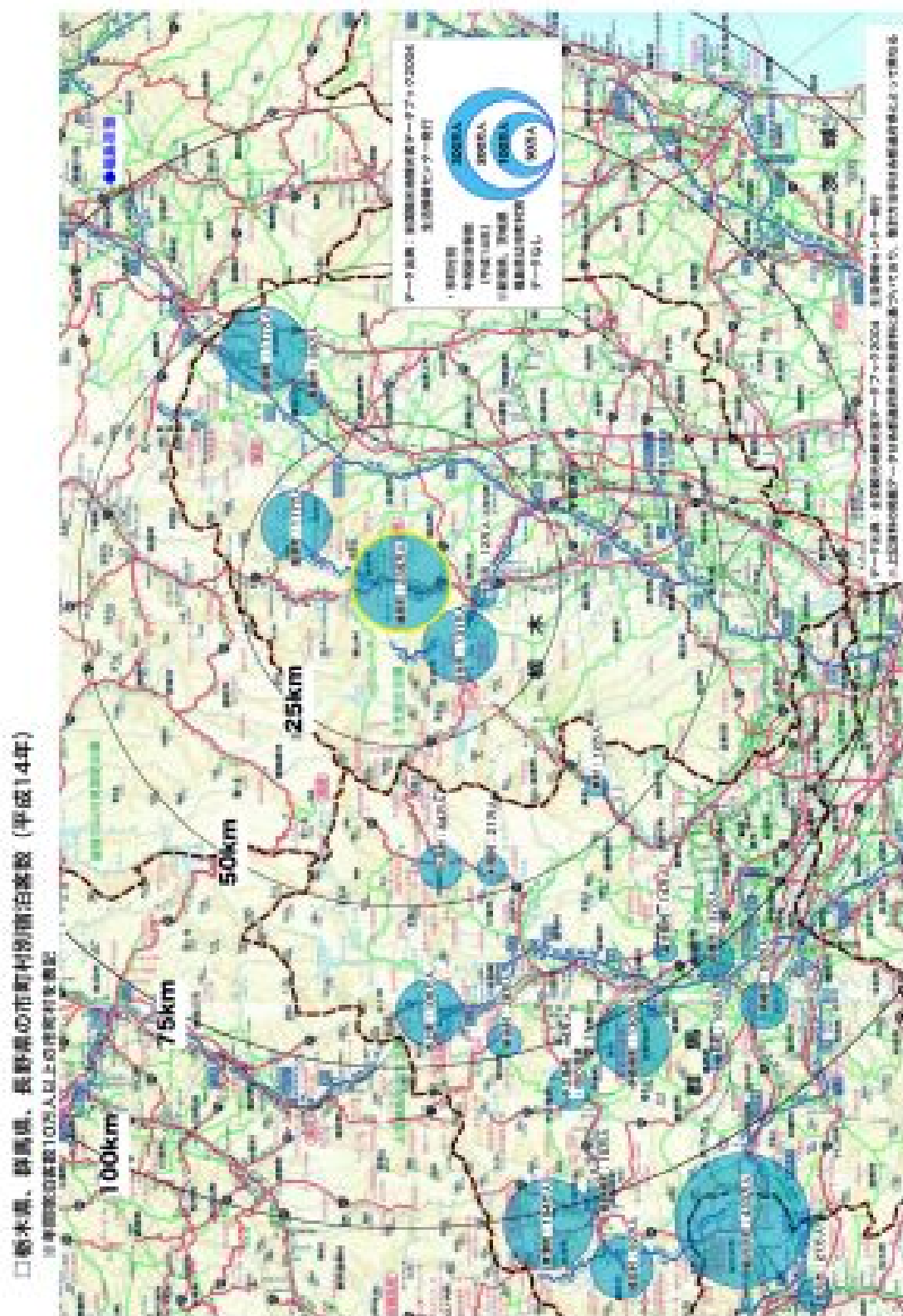
栃木県および近隣県の市町村別観光入込客数（平成14年）  
 年間観光入込客数100万人以上の市町村を表記

□ 栃木県および近隣県の市町村別観光入込客数（平成14年）

※ 年間観光入込客数100万人以上の市町村を記載

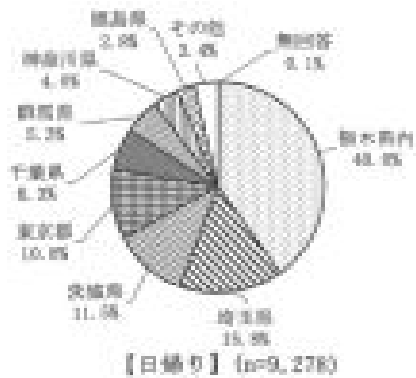
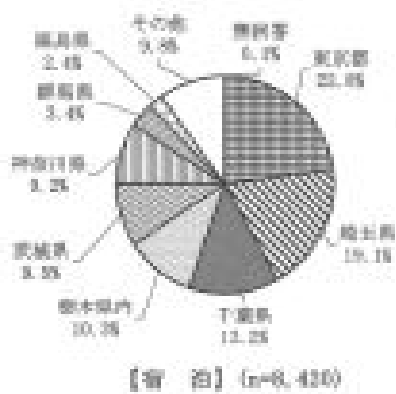


栃木県、群馬県、長野県の市町村別宿泊客数  
 年間宿泊客数 10 万人以上の市町村を表記



### 観光客の出発地

- ・全体としては県内居住者が多いが、宿泊客に限定すると東京都・埼玉県・千葉県が県内より多い。
- ・日帰り客はやはり県内が多い。県外では埼玉県が多く、茨城県、東京都と続く。  
(県内主要観光地におけるアンケート調査結果、サンプル数 17,698)

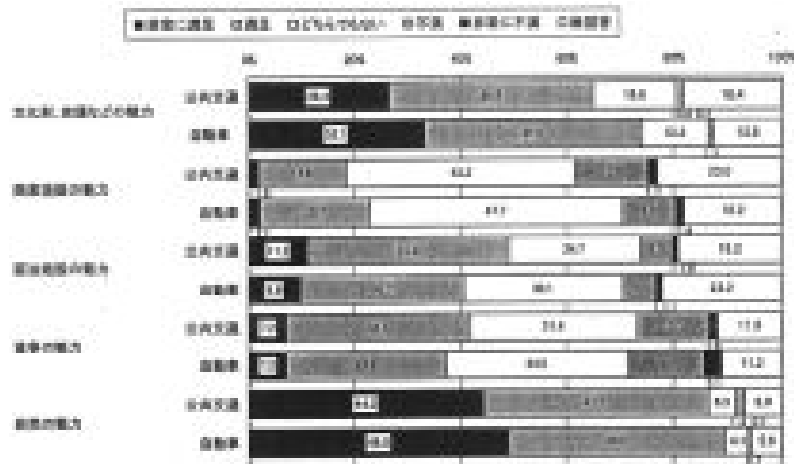


### 観光客の居住地

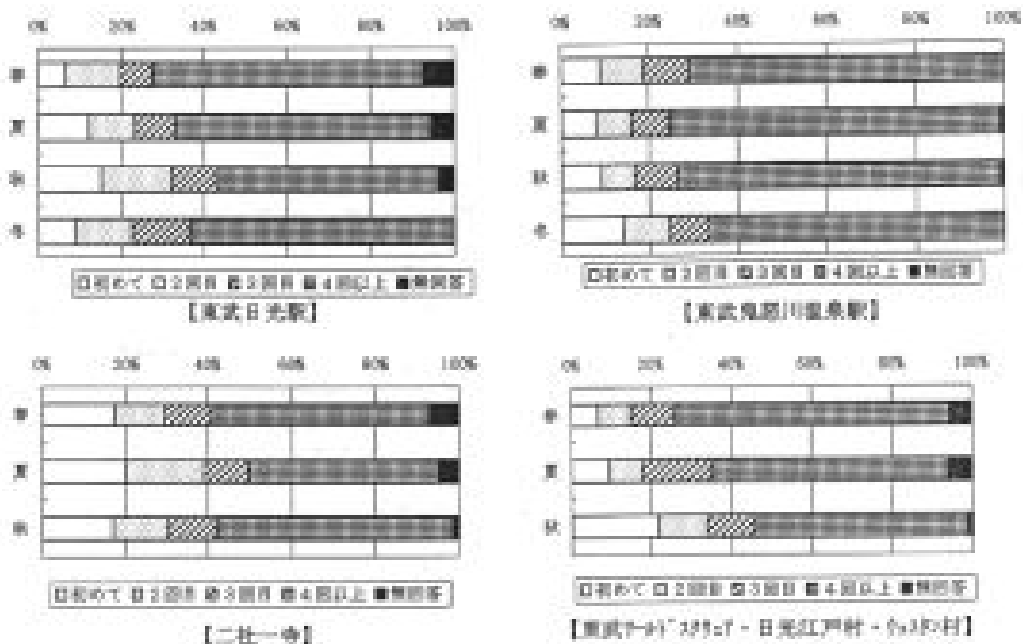
出典：栃木意見観光動向調査、2004.3、栃木県商工労働観光部観光課

日光地域の観光動向  
観光の入込と目的

- ・日光地域の入り込みは減少傾向
- ・日光地域の魅力は、自然、文化財・史跡。
- ・日光は、日帰り、宿泊をバランスよく集客。鬼怒川は宿泊客中心。この傾向はマストラ利用で強まる。
- ・鬼怒川を中心とする回遊は、日光止まり。日光は、鬼怒川方面、湯本方面など多方向に回遊。
- ・鬼怒川はリピーター率が高い。一方、日光やテーマパークは、来訪回数の少ない人が多い。



日光観光の満足度



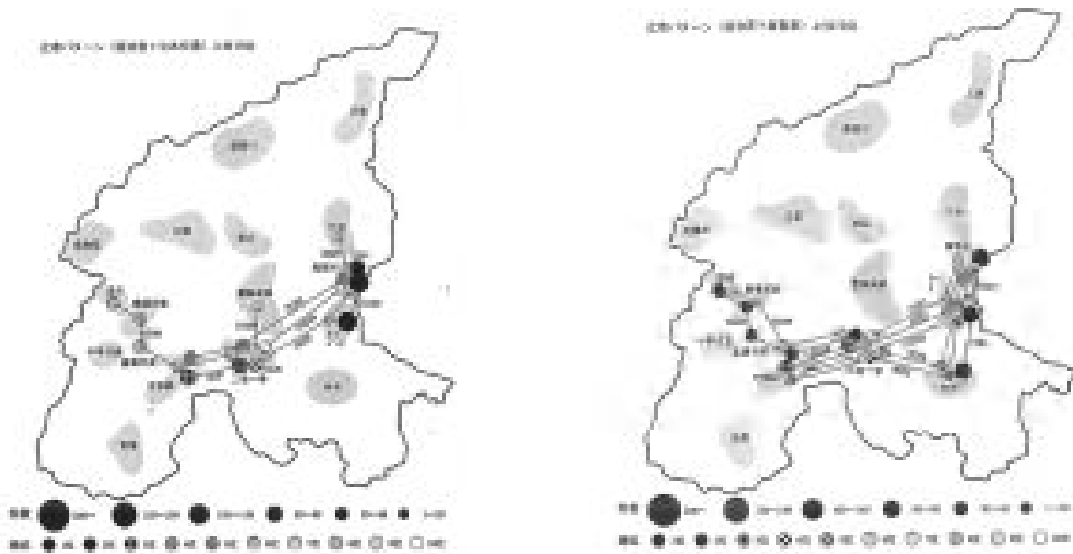
調査地点別来訪頻度

出典：日光都市圏総合都市交通体系調査、H12.3. 栃木県日光土木事務所

### 観光客の立ち寄りパターン（日光都市圏レベル）

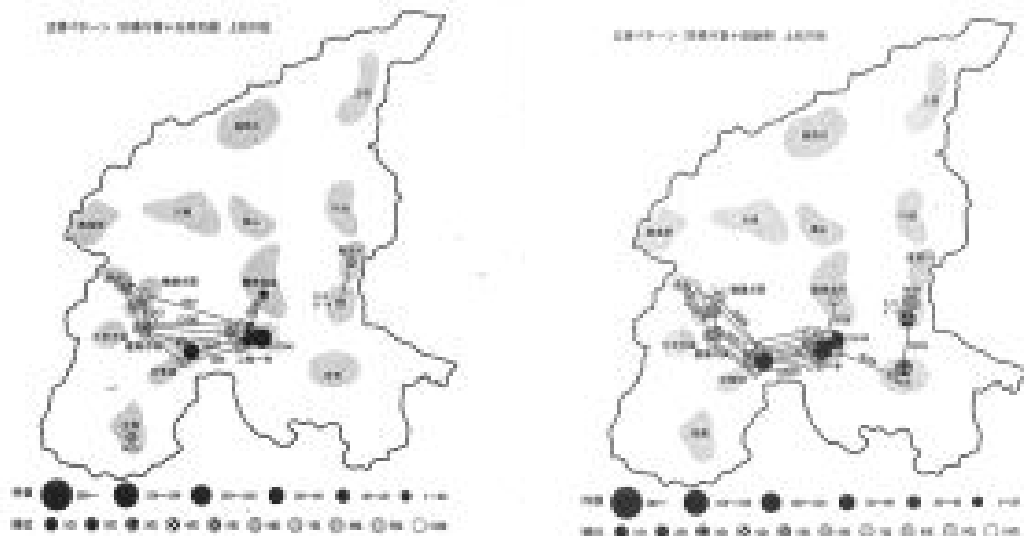
宿泊客：

- ・公共交通利用客では、第1位が鬼怒川エリアとテーマパークエリア、第2位が鬼怒川エリアのみの立ち寄り、第3位が二社一寺エリア・中宮祠エリアなど交通の便が良いエリア内での立ち寄りが多い。
- ・自動車利用では、公共交通に比べて今市エリアや日光・鬼怒川をまったく立ち寄りが見られる。



日帰り客：

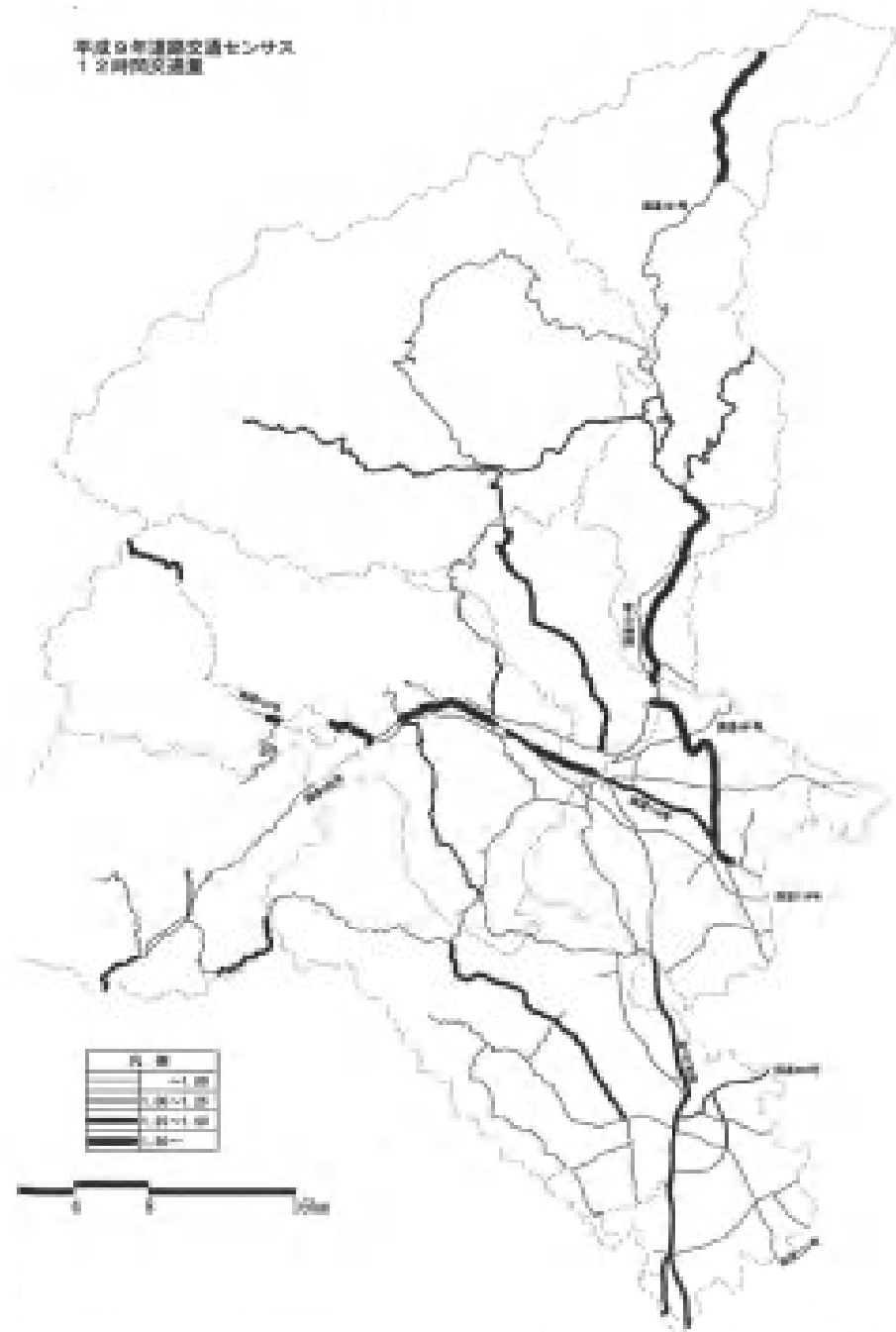
- ・公共交通利用、自動車利用とも、第1位が二社一寺エリアのみ、第2位が中宮祠エリアと二社一寺エリアの立ち寄りとなっている。
- ・自動車利用では、テーマパークエリアに立ち寄るパターンが見られる。



出典：日光都市圏総合都市交通体系調査、2000.3、栃木県日光土木事務所

### 日光地域の交通に対する評価

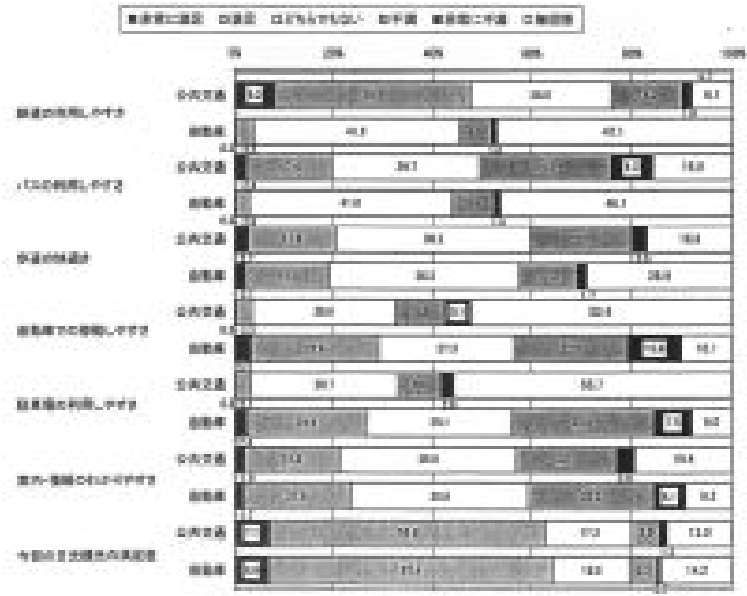
- ・鉄道は、所要時間の短さや定時性を評価され満足度は高いが、運行本数などより高い利便性への期待がある。
- ・バスは、運行本数や渋滞の影響に対する不満が見られる。
- ・自動車は、移動の快適性を評価されているが、渋滞や駐車場の不足に対する不満が見られる。
- ・案内・情報のわかりやすさについても、一定の不満が見られる。



道路混雑度（休日）

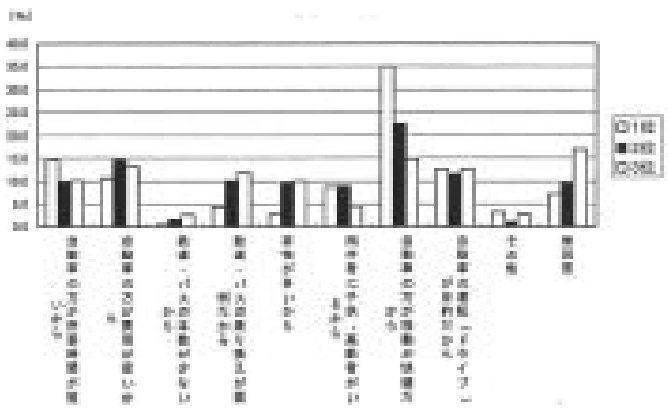
出典：日光都市圏総合都市交通体系調査，H12.3，栃木県日光土木事務所



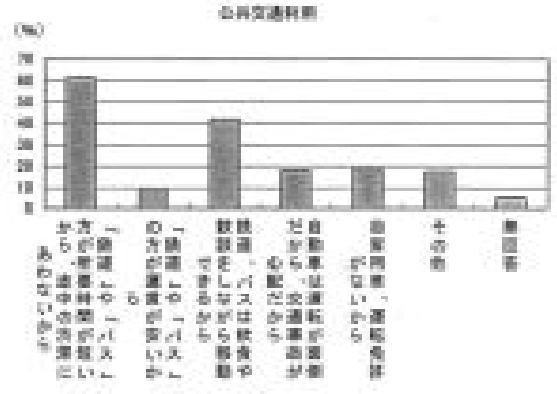


日光観光の満足度

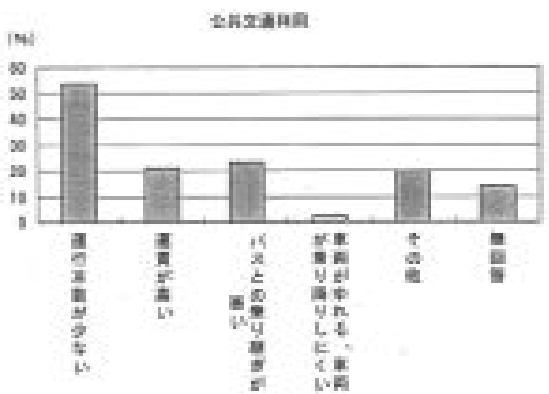
出典：日光都市圏総合都市交通体系調査，H12.3，栃木県日光土木事務所



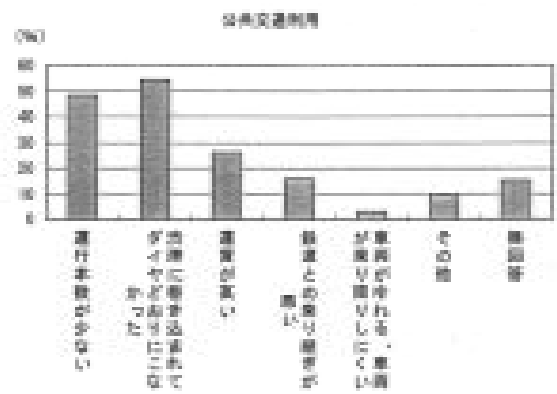
自動車を利用した理由



自動車を利用しなかった理由

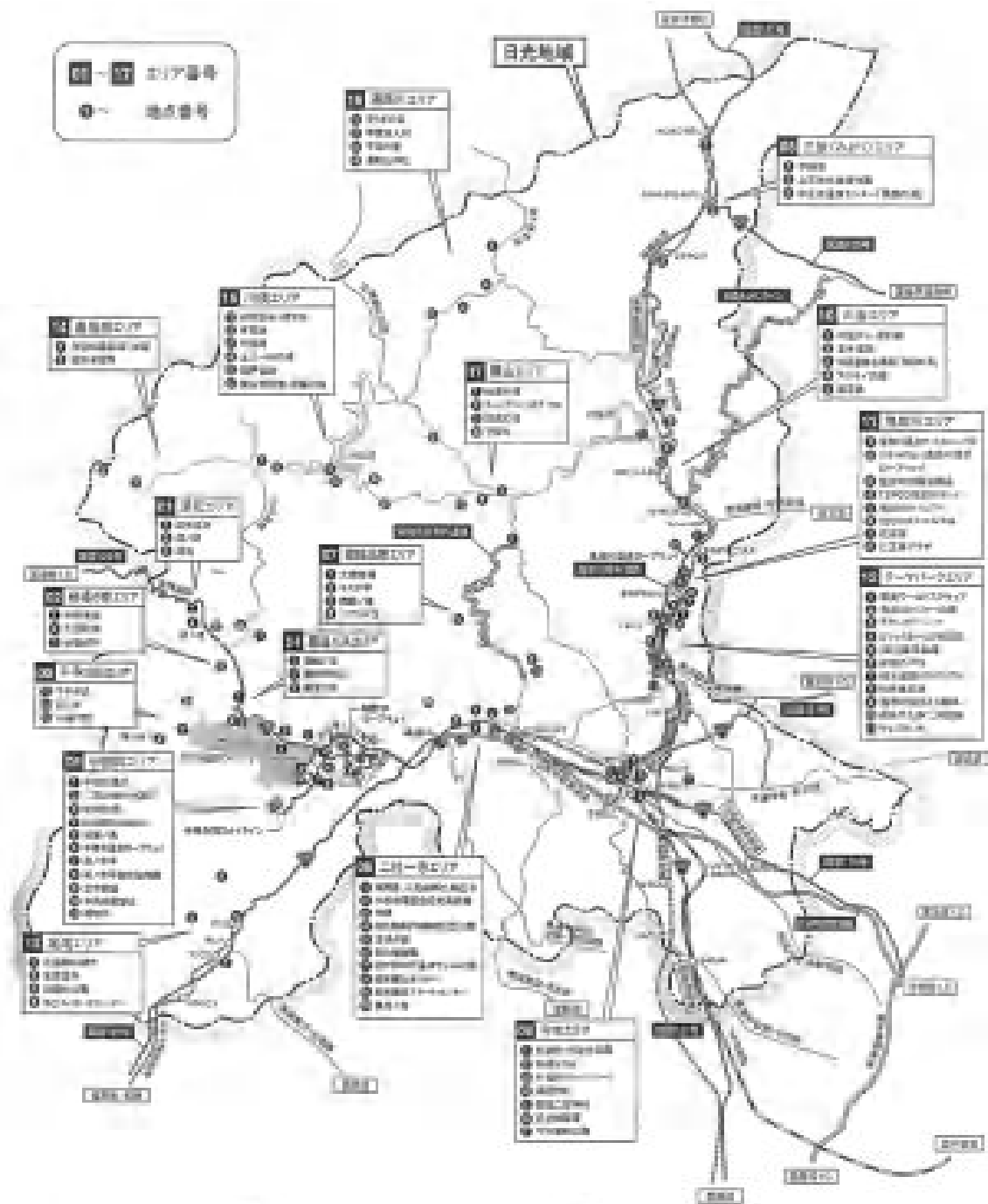


鉄道に対する問題点



バスに対する問題点

出典：日光都市圏総合都市交通体系調査，H12.3，栃木県日光土木事務所



日光地域の観光資源

出典：日光都市圏総合都市交通体系調査、H12.3. 栃木県日光土木事務所

## 鬼怒川温泉駅を起終点とするバス路線

行き先	主な経由地	運行間隔	所要時間	料金	運行会社
東武日光駅		午前午後各1便	50分	1000円	東武ダイヤルバス
下今市駅	東武ワールドスクウェア	約1時間毎	37分	870円	東武ダイヤルバス
日光江戸村	東武ワールドスクウェア	約20分毎	22分	400円	東武ダイヤルバス
塩原温泉	ハンターマウンテン塩原	秋期のみ2便	75分	1900円	JRバス関東
湯西川温泉	竜王峡、川治温泉	30分～1時間毎	70分	1800円	東武ダイヤルバス
女夫淵	川俣温泉	5便	85分	2100円	栗山村営バス
旅館巡回バス	(鬼怒川温泉内)	30分～1時間毎	5～10分	180円	東武ダイヤルバス
鬼怒川公園	(鬼怒川温泉内)	約1時間毎	10分	220円	東武ダイヤルバス

日光江戸村から日光方面へのバス路線はなく、鬼怒川温泉へ戻る必要がある。

## 日光鬼怒川レンタカークーポン

鉄道往復割引料金	同乗者全員2割引
レンタカー割引料金	8～12%引き
日光・鬼怒川の相互乗り捨て無料	

## 鬼怒川温泉駅～東武日光駅間のダイヤ

↑: 日光方面へ、↓: 鬼怒川温泉方面へ

↑: 日光方面へ			↓: 鬼怒川温泉方面へ		
時刻	鬼怒川温泉	日光	時刻	日光	鬼怒川温泉
5:34			5:58		
6:12			6:38		
6:52			7:24		
7:31			7:58		
			8:05		
			8:17		
8:12			8:42		
			9:05		
8:47			9:20		
			9:42		
9:44			10:08		
			10:42		
10:44			11:08		
			11:41		
11:42			12:11		
			12:18		
12:44			13:11		
			14:18		
13:44			14:11		
			14:18		
14:47			15:11		
			15:18		
15:48			16:11		
			16:18		
16:04			16:41		
16:45			17:20		
			17:41		
17:32			18:00		
17:47			18:18		
			18:41		
18:36			19:11		
			19:43		
19:39			20:12		
			20:43		
20:41			21:07		
			21:24		
21:38			22:26		

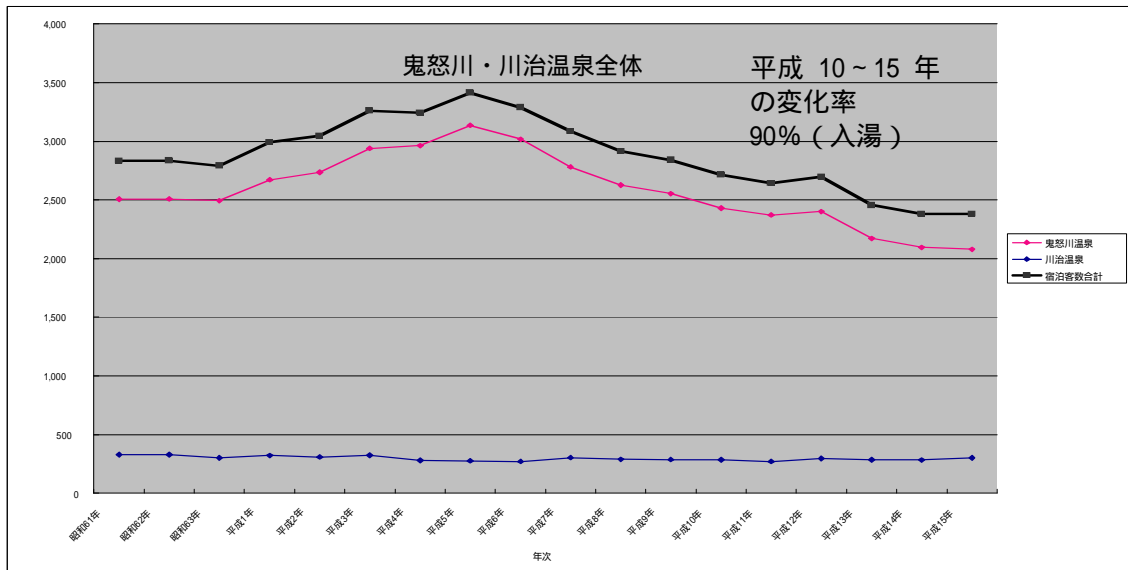
↑: 日光方面へ、↓: 鬼怒川温泉方面へ

↑: 日光方面へ			↓: 鬼怒川温泉方面へ		
時刻	鬼怒川温泉	日光	時刻	日光	鬼怒川温泉
5:22			5:31		
5:50			5:58		
6:29			6:37		
7:08			7:16		
7:45			7:53		
8:17			8:25		
8:58			8:58		
9:17			9:25		
9:59			10:08		
10:25			10:33		
10:59			11:08		
11:25			11:33		
11:59			12:08		
12:08			12:16		
12:25			12:33		
12:59			13:08		
13:08			13:16		
13:25			13:33		
13:59			14:08		
14:25			14:33		
14:47			14:54		
15:08			15:17		
15:47			15:54		
16:04			16:07		
16:45			16:16		
16:47			16:54		
16:59			17:09		
17:19			17:26		
17:58			18:06		
18:06			18:14		
18:43			18:50		
18:51			18:58		
18:59			19:08		
19:42			19:50		
19:59			20:08		
20:53			21:02		
21:50			21:59		

## 鬼怒川・川治温泉および周辺の観光動向

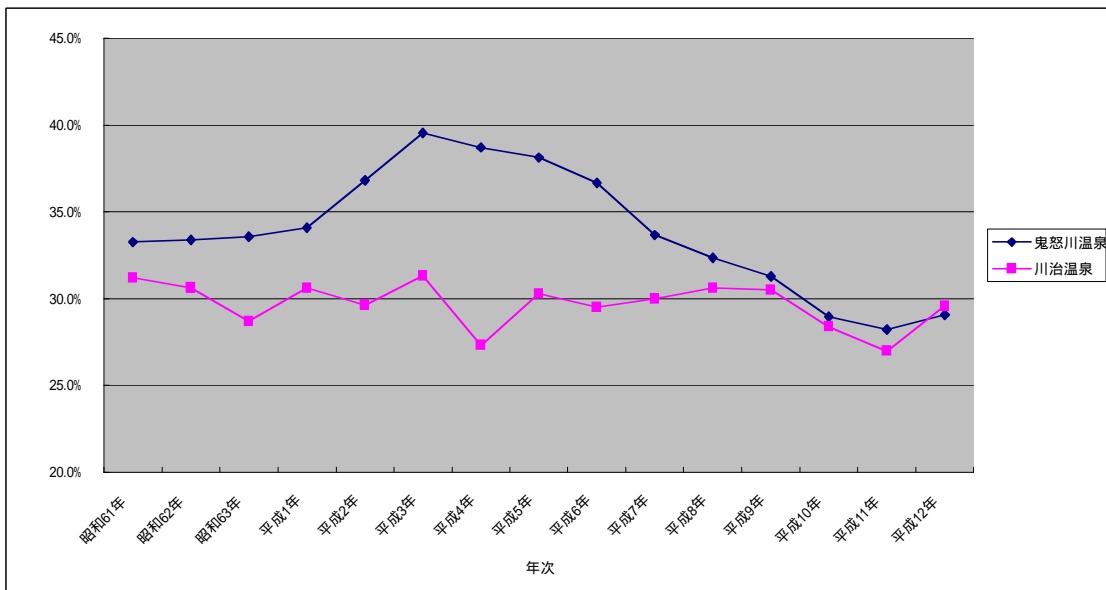
### 宿泊客数

- ・鬼怒川温泉の宿泊客数は平成5年のピーク時3,137千人から減少を続け、平成11年には2,373千人まで落ち込んでいるが、平成12年には微増した。
- ・川治温泉の宿泊客数は平成3年頃までは300～320千人程度で推移していたが、平成6年には270千人程度に減少、ただし平成12年には297千人と増加した（前年比9.6%）。



### 宿泊施設稼働率

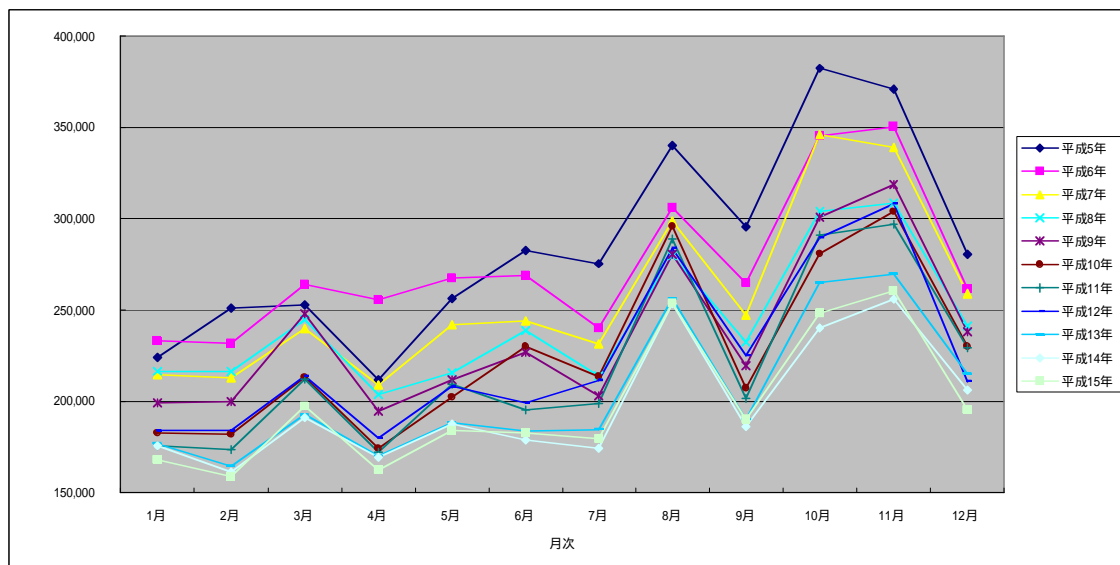
- ・鬼怒川温泉の収容人員は22,697人、川治温泉は2,750人となっている（平成12年時点）。
- ・鬼怒川温泉は平成3年の36.7%をピークに稼働率が落ち込んできている（平成12年で29.1%）。川治温泉は30%前後で比較的安定して推移している。



## 年別・月別の变化（入湯客数調）

上位	1位	2位・3位
下位	1位	2位・3位

	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平均	
1月	224,070	233,090	214,628	216,505	199,153	182,620	175,834	183,984	176,693	175,716	168,002	195,481	7.0%
2月	251,164	231,895	213,067	216,287	199,997	181,862	173,667	183,919	164,445	161,214	158,728	194,204	6.9%
3月	252,797	263,970	239,906	244,757	248,001	213,129	212,072	213,866	192,717	190,966	197,249	224,494	8.0%
4月	211,865	255,550	208,936	203,852	194,571	174,130	171,864	179,848	169,820	169,353	162,430	191,111	6.8%
5月	256,514	267,449	242,078	215,698	211,781	202,326	209,245	208,156	188,339	187,739	184,151	215,771	7.7%
6月	282,577	268,852	244,122	238,744	227,059	230,207	195,302	199,139	183,615	178,907	182,611	221,012	7.9%
7月	275,399	240,266	231,500	213,709	202,935	213,597	198,853	211,496	184,556	173,976	179,415	211,427	7.5%
8月	340,107	306,147	298,631	279,668	280,501	295,845	288,769	283,735	256,346	253,491	253,862	285,191	10.2%
9月	295,364	264,607	247,225	232,454	219,596	207,375	201,411	225,095	189,996	186,140	190,090	223,578	8.0%
10月	382,498	345,306	346,328	304,067	300,876	280,716	290,999	289,625	264,796	240,303	248,342	299,441	10.7%
11月	371,143	350,396	338,833	308,568	318,687	303,841	296,892	308,238	269,661	256,006	260,371	307,512	11.0%
12月	280,602	261,566	258,904	241,269	238,214	230,153	229,595	210,923	214,979	206,072	195,295	233,416	8.3%
	3,424,100	3,289,094	3,084,158	2,915,578	2,841,371	2,715,801	2,644,503	2,698,024	2,455,963	2,379,883	2,380,546	2,802,638	

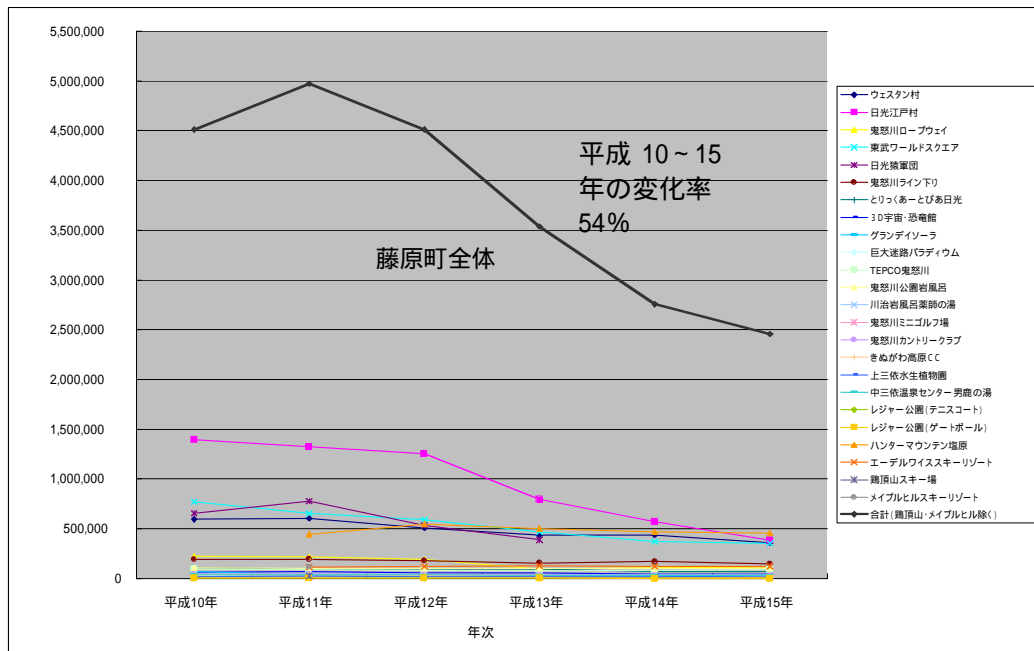


## 全体的な観光客数と宿泊客数の動向よりの考察（参考）

季節	宿泊客数	観光客数	考え得る方向性	(例)
春	ボトム ・5月小ピーク	ボトム ・4月小ボトム	温泉地独自の努力	・イベント ・入学、就職キャンペーン等々
夏	ピーク ・夏休み ・9月ボトム	ピーク ・夏休み ・9月ボトム	現状活用・平準化 (他季節への布石)	・ピアガーデン(実施経験有) ・他の季節の魅力PR等々
秋	ピーク ・紅葉 ・保養型?	ボトム 日光などは ピーク?	周遊観光への貢献	・周遊ツアー、クーポン ・イベント連携等々
冬	ボトム ・寒すぎ? ・3月小ピーク	ピーク ・冬休み (スキー)	スキー客の取り込み	・PR(那須エリアのアクセス等) ・スキー客向けプラン等々

## 周辺観光施設利用者数

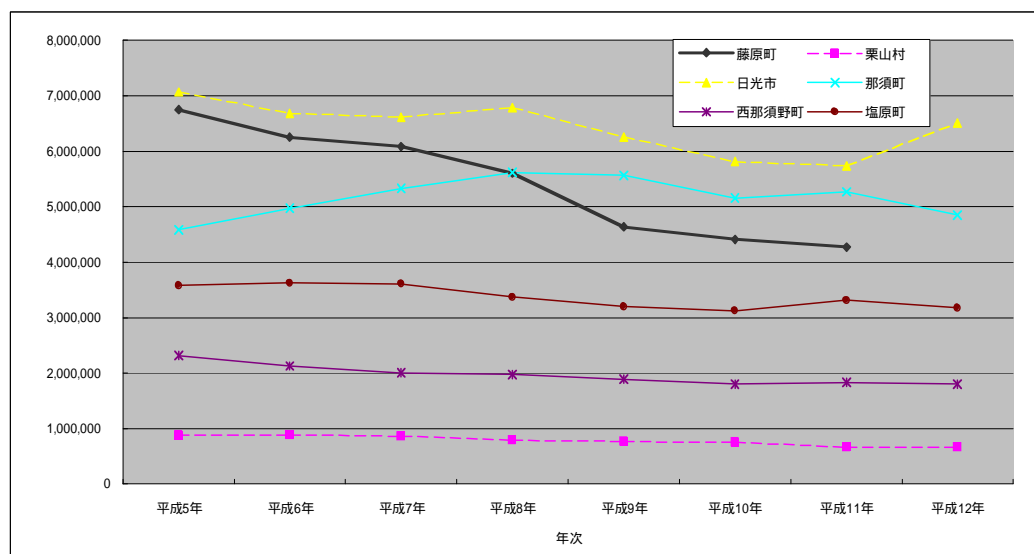
- ・軒並み減少しており平成 11 年頃に比べて半分以下となっている。特に、ウェスタン村、日光江戸村、東武ワールドスクエアなど大型施設の減少が激しい。
- ・一方で、ハンターマウンテン塩原やエーデルワイススキーリゾート、巨大迷路パラディウムなどは利用者数が安定している。
- ・鬼怒川温泉市街地内には鬼怒川ロープウェイ、鬼怒川ライン下り、TEPCO 鬼怒川、鬼怒川公園岩風呂などの施設があり、程度の差はあるが利用者数は軒並み減少している。



データが年度全体に渡っていないため合計には鶏頂山スキー場、メイプルヒルスキーリゾート含まない。また、日光猿軍団は平成 13 年までのデータの在

## 周辺市町村の観光客入込数の比較

- ・近年、周辺市町村に比べて藤原町の観光客数が減少してきている事が窺える。



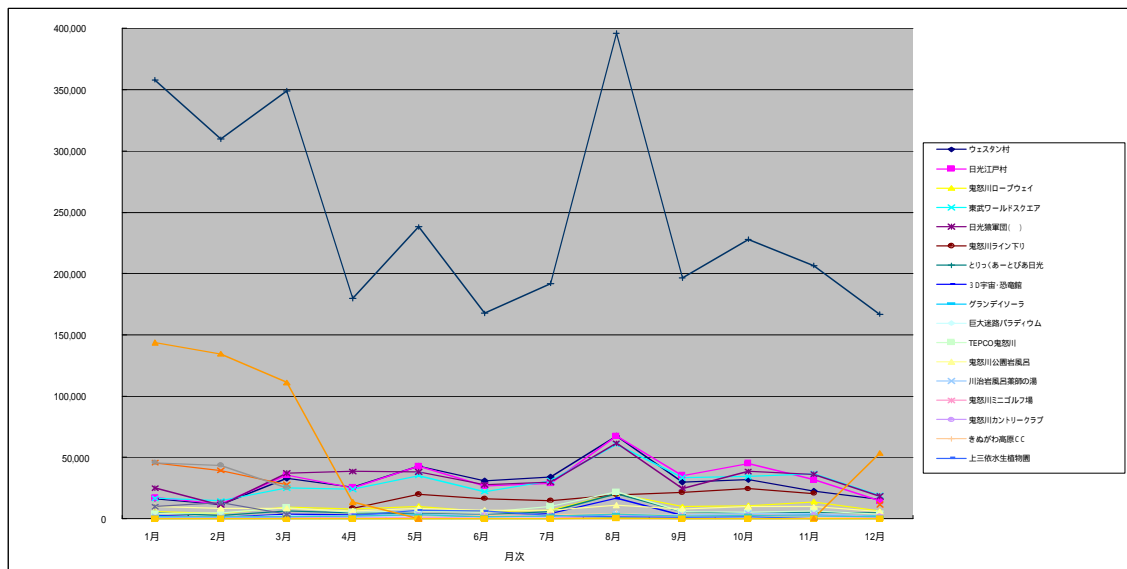
出典：藤原町観光地づくり基本構想、H13.3、藤原町観光企画 2002 委員会

# 月別の観光施設利用者数（平成 15 年、月別）

上位	1位	2位・3位
下位	1位	2位・3位

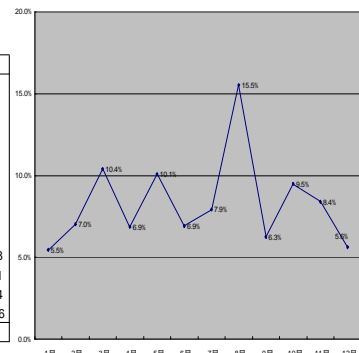
施設名・月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
ウェスタン村	16,531	11,652	33,032	25,699	42,945	31,079	34,213	67,760	29,940	31,972	22,552	16,016	363,391
日光江戸村	17,207	12,504	35,643	25,458	42,851	26,719	29,054	67,515	35,323	45,309	31,924	14,572	384,079
鬼怒川ロープウェイ	5,966	4,612	9,496	8,220	10,200	6,200	7,000	20,700	9,900	10,800	14,100	6,400	113,564
東武ワールドスクエア	16,643	14,580	25,289	24,227	35,249	22,300	31,259	60,924	33,554	34,535	36,747	18,997	354,304
日光猿軍団	25,129	11,359	37,263	38,704	38,359	27,582	29,852	61,509	24,943	38,759	36,531	18,500	388,400
鬼怒川ライン下り	4,740	2,600	6,500	4,900	4,600	3,500	6,000	20,300	6,100	4,200	5,600	4,726	146,989
とびっく(あーとびあ日光)	3,014	1,344	3,759	3,191	3,014	1,819	4,344	16,770	2,697	2,245	2,674	1,974	46,845
3D宇宙 恐竜館	2,492	978	1,960	1,556	2,084	1,254	1,676	3,522	2,024	2,074	3,600	2,500	25,620
グランディソーラ	1,073	979	2,850	1,475	1,940	791	1,333	4,362	1,465	1,524	1,940	1,491	21,233
巨大迷路パワデイズム	4,452	4,776	9,258	5,850	6,371	5,391	10,410	22,112	6,017	5,222	6,544	4,001	60,384
TEPCO鬼怒川	10,223	8,366	8,605	6,809	8,910	7,075	7,063	11,168	8,200	9,978	9,943	5,970	102,310
鬼怒川公園岩風呂	1,634	1,746	2,030	2,594	3,968	2,956	2,781	4,239	3,455	4,439	4,636	1,500	35,978
川治岩風呂薬師の湯	598	627	1,433	908	1,345	730	880	2,092	1,242	2,332	1,397	1,248	14,832
鬼怒川ミニゴルフ場	940	830	1,644	2,310	3,149	2,888	2,473	2,502	2,453	2,866	3,030	1,946	27,061
鬼怒川カントリークラブ					2,050	2,592	3,223	4,552	2,948	1,402			74
きぬがわ高原KC					6,838	6,362	3,142	1,684	1,339	1,590	200		24,045
上三枚水生植物園	1,725	1,683	1,946	2,880	2,147	3,254	1,987	2,425	3,737	2,578	2,990	2,325	28,418
中三枚温泉センター男爵の湯	2	31	242	117	259	182	182	611	435	174	137	0	1,621
レジャー公園(ミニスゴート)	0	40	0	20	270	0	0	325	140	5	12	0	812
レジャー公園(ゲートボール)	143,756	134,520	111,191	13,888	139						490		457,636
ハシゲマウンテン倶楽部	45,840	39,560	27,881										125,013
エーデルワイススキーリゾート	9,993	13,164	3,666										26,823
鶏頂山スキー場	45,870	43,719	25,476										115,065
メイプルヒルスキーリゾート													
合計	357,928	309,670	349,174	179,680	238,022	167,789	192,086	396,192	196,308	227,993	206,575	166,910	2,988,307

日光猿軍団については平成 13 年、鶏頂山スキーリゾート・メイプルヒルスキーリゾートについては平成 11 年のデータを利用（以降のデータが存在しないため）



(参考：一般的な観光動向)

目的・実施月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
見物・行楽	19	34	76	65	116	69	65	158	63	74	72	38	849
慰安旅行	40	47	71	34	54	50	46	76	54	82	70	39	663
温泉・湯治	45	58	83	57	67	46	29	56	34	68	68	46	657
スポーツ・レク	43	56	57	21	39	30	51	95	20	34	22	29	497
祭・イベント	6	14	11	10	12	10	18	33	8	7	7	5	141
その他	4	8	12	13	16	6	11	18	10	11	9	14	132
趣味・研究	5	8	13	9	18	10	11	19	3	16	11	4	127
わすれた	12	9	15	4	6	8	12	17	8	11	12	9	123
その他保養・休養	6	6	9	8	4	4	8	23	3	12	9	8	100
神仏詣	6	4	8	10	7	3	7	12	8	12	8	3	88
出会い・交流	1	2	9	9	11	4	4	5	5	3	6	2	61
避暑・避寒	3	0	0	0	2	0	15	31	2	1	0	0	54
新婚旅行	1	0	0	0	1	2	0	0	1	1	0	0	6
合計	191	246	364	240	353	242	277	543	219	332	294	197	3,498



## 定住人口・交流人口比率

・全国の温泉地の中でも藤原町は、いわば「町民がもてなす客の数」が、日本で2番目に多い。

順位	市町村名	交流人口(人)	定住人口(人)	比較人口(人)	順位
1	藤原町	4,415,541	15,252	289.5	1
2	熱海市	3,577,208	44,128	81.1	3
3	札幌市	3,003,743	1,792,187	1.7	10
4	藤原町	2,700,820	12,220	221.0	2
5	加代市	2,686,515	125,195	21.5	7
6	伊東市	2,602,523	75,249	34.6	4
7	那珂市	1,999,311	287,843	6.9	8
8	加賀市	1,834,358	88,880	20.6	6
9	山合市	1,830,553	997,727	1.8	9
10	豊原市	1,781,892	65,803	27.1	5

※資料：北海道ホテル旅館環境衛生同業組合平成11年12月作成

※注：同一温泉地内による重複は1年1月1日現在人口

定住人口に対する交流人口(入湯人員)の割合

出典：藤原町観光地づくり基本構想(H13.3) 平成10年度



## 2) 地元最新情報の把握

### (1) 地元のとりくみ状況

- ・藤原町、鬼怒川・川治温泉レベルの計画検討において各種委員会が組織されているが、メンバーの継続性、実施段階のフォローアップなどの問題が見られる。
- ・地元の活動主体としては、業界団体として「旅館組合青年部」の諸活動、有志的な主体として「歩いて楽しいまちづくり実行委員会」や「藤原の明日を語る会」など、地域密着型の活動主体として「本町地域活性化委員会」などがあるが、参画メンバーの固定化、資金面などの問題を抱えるとともに、地域再生全体への位置づけや活動展開が必要である。

#### 藤原町観光企画2000年委員会

- ・藤原町観光地づくり基本構想（基本理念とプログラム、平成13年）

#### 藤原町活性化協議会

- ・皆んなで考えた街づくり構想（手作りのまちづくり計画、平成13年）

#### 旅館組合青年部

- ・今市のシイタケを利用した料理開発
- ・ツインリンクもてぎでの広報活動
- ・麒麟ビールとのタイアップ・キャンペーン
- ・麒麟ビールの鬼怒川デザイン缶

#### 藤原の明日を考える会

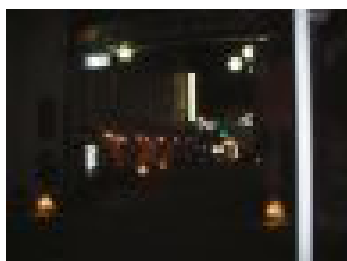
- ・町内小中学生・保護者へのアンケート→街の美化活動に展開
- ・飲食店情報「鬼怒川の食事どころ」のWebサイト開設
- ・ふれあい橋ビアガーデンの開催（旅館組合青年部共催）

#### 歩いて楽しい街づくり実行委員会（旅館組合青年部が中心）

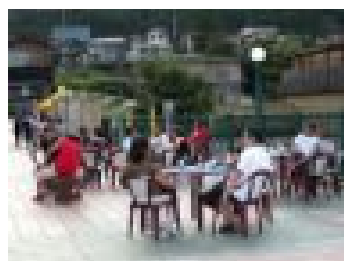
- ・オリジナル浴衣の製作
- ・ベンチの設置
- ・四季の花育成プラン（サクラ、モミジ、ツツジなど10年計画）
- ・花巡りをテーマとするフラワーコンテスト開催

本町地域活性化委員会

- ・手づくり行灯イベント
- ・本調査と連携した空店舗活用社会実験



本町通り手づくり行灯



ふれあい橋ピアガーデン  
(藤原の明日を語る会ウェブサイトより)



本町ふれあい広場・昭和鬼怒川展  
(空き店舗活用社会実験)

OurTimes of  
TERRACE GALLERY  
CROSSING THE CHANGING OF MARCH

旭町ふれあい広場・手づくり作品教室  
(空き店舗活用社会実験・写真提供：NPO法人日光BBC)

地元の取組状況

## (2) 地元委員ブレインストーミング(再生コンセプト立案)

### 藤原町国土施策創発調査 グループ・ミーティング記録

日時:2005年2月21日(月)12:00~13:00

場所:レストラン あさや

出席者:藤崎慎一((株)地域活性プランニング代表取締役)

「藤原町の明日を語る会」5名:

筒井(地域再生マネージャーサポーター、服飾店経営)、

星(国民宿舎経営)、山口(教育委員会勤務)、

大勝(コンビニ経営)、阿久津(豆腐店経営)

高橋(地域再生マネージャーサポーター、ホテル経営)

町: 作道観光課長、沼尾地域再生推進室室長、沼尾同主幹

オブザーバー:UDC:加藤、八木、都市研:河合、矢作、平井

(藤崎氏より自己紹介)

・浜名湖の館山寺や伊豆・伊東温泉、富士宮市や伊勢・志摩など様々な地域で、地域活性の手伝いをしている。以前はリクルートの地域活仕事業部で同種の仕事をしており、その後独立した。現在は計画を形にすることを目的に、アドバイザーとして活動している。

・どの地域も、基本計画は良いものが出てきているのだが、実行が伴わないケースが多い。今回は委員会という堅苦しい場ではなく、昼食をとりながらざっくばらんに皆さんの考えや希望を聞き、地域再生のきっかけをつかみたいと考えている。また、委員会終了後の3~4月以降も、希望があればお手伝いを続けていきたい。

・地域活性は人間関係である。複雑な人間関係が活性化の障害になっていると指摘されることが多いが、努力している人たち皆が認め合っていけば、活性化は成功すると考えている(藤崎)

(参加者の自己紹介)

・鬼怒川温泉から数キロ離れたところで国民宿舎を運営している。半公共の宿で、バブル期と比較しても入り込み客はさほど変わらないので特に問題を感じていなかったが、町のことを考えると頑張らないと、明日を語る会に参加するようになった。(星)

・もと教員で、現在は教育委員会に勤務している。生涯学習を担当しているのだが、生涯学習はまちづくりだと考え、これを中心的な仕事として考えている(山口)

・コンビニを運営しており、商工会議所青年部の代表を務めている。商工会議所の業務で各地の代表者と交流する機会が多いのだが、どこの観光地も問題を抱えていても、努力しているところは改善傾向にあるようである。鬼怒川もそうなるように努力したいと考えている(大勝)

・地元で豆腐店を運営している。生まれ育った地元を良くしていきたいと考えている(阿久津)

・(本日は旅館組合青年部も出席予定だったが、急遽会議が入り、本日は欠席である:町)

(鬼怒川温泉の課題)

- ・鬼怒川温泉の課題は、観光協会や明日を語る会などの各団体の活動が、互いにリンクしていないことだと思う。これでは町づくりが観光資源にならないことから、予算を組んで町の事業化していくことが必要なのではないか。まず組織の作り方が課題であり、藤崎氏のアドバイスに期待したい(高橋)

四万温泉でも同様の課題に取り組んだが、結論から言うと合意形成は無理である。商売で勝たないと意味がないことから、まず成功例(先達)をつくることが重要である。各地で設立されているTMOがうまくいかないのが、皆がそこに任せてしまうからであり、それよりも個々がどれだけ儲けるか、個々がどれだけスキルアップするが先決で、成果はあとからついてくるものである(藤崎)

- ・地域再生は、地域作りからではなく個々のスキルアップからということか(筒井)  
その思いで臨まないとうまくいかないだろう(藤崎)
- ・そうすると、現状でも弊害が指摘されている旅館の囲い込みがもっとひどくなるのではないか(筒井)

それは旅館経営者の視点の問題である。「自分のところだけ良ければいい」なら町は衰退して失敗する。失敗してそのことに気づき「自分のところをよくするために町もよくする」「町を良くするためには自分はどうすればよいか」と考えるようになるのではないか(藤崎)

別府の「杉の井旅館」はオリックスが買収し、収益性を追求した経営を行っているが、その過程で別府の旅館組合と相互に協力して宣伝や広報を行うようになった。そういった事例もある(藤崎)

- ・鬼怒川温泉で、まちづくりや観光事業に関連している団体にはどのようなものがあるのか(藤崎)

日光市商工会(藤原支部)、旅館組合、飲食店組合、語る会、町内会、観光協会などがある。

鬼怒川温泉と川治温泉にはそれぞれ観光協会があり、連合会を形成している(筒井、高橋、町)

- ・それぞれの団体が全部バラバラのことをやっている。以前はまとまらなくても飯が食えたため、ひとつひとつが独立していて、共和国のような状態になっていた(大垣)
- ・観光関連予算(年 8000 万円程度)が、すべて観光協会から各用途に配分される方法は時代遅れのように思える(大垣)

(平成 17 年度以降の展開について)

- ・現在、私は 3 つの創発事業の委員をつとめているが、4 月以降、鬼怒川温泉ではどのような展開を予定しているのか(藤崎)
- ・国に地域再生計画の認定を受け、将来的には福祉観光や癒し観光の展開を目指しているが、来年度は集客増に結びつく施策を実施していきたいと考えている。具体的な個別施策はまだ検討中である(町)

- ・まちづくり会議を開催する場合など、予算的な裏付けはあるのか（藤崎）  
ある程度の予算確保は可能と考えている（町）
- ・現在、観光地の再生に関連する国の様々な補助金の募集が行われている。「観光みらいプロジェクト（まちづくり）」には提案する予定か（藤崎）  
提案する方向で検討を進めている（町）
- ・国も成果が上がる場所に予算を付ける必要があり、モデルとなる地域を求めている。来年も創発事業は行われる予定であり、そういった事業を連携させる必要がある。私が関わっている事業のひとつに、「観光まちづくり活性化塾」があり、3回の開催で成果を出すプログラムを組んでいる。また経済産業省サービス政策課の「集客交流サービス事業」などもあり、今後選定が行われる予定である（藤崎）
- ・このような動きを踏まえると、もはや合意形成のまちづくりはあって当然であり、今後はどうやって成果を上げるかが問題になる。具体的な目標や達成時期を決め、それに向けてどう動いていくかを考えなければならない。そうやって成果があがっている（集客されている）ところに国の支援が行われる構造になりつつある。全国の多くの地域が集客を目標に動き始めているので、そういった動きを活用することも考えられる（藤崎）
- ・現在、旅行の選択肢が非常に広がっており、旅行の傾向も大きく変わっている。地域にお金を落とす戦略を考えなければならない。それを実現するためには、まず「人のせい」にするのはやめなければならない。やる気のある人たちだけでも協力して事に当たらなければならない（藤崎）
- ・当面の目標を定めるためにも、いま藤原町ではどのようなことを行っているか聞かせて頂きたい（藤崎）  
先ほど、鬼怒川温泉のまちづくりを行っているのはどの団体かという質問があったが、それがよくわからないのが弱点のように思う（大垣）  
イベントは観光協会が主に行っているが、明日を語る会がそこに参加したいと思っても、接点が見つからないような状況がある（星）  
全体の命令系統がはっきりせず、大きな流れとして「鬼怒川をこうやっていこう」といった方向性がないのが現状であり、問題点だと思う（山口）
- ・各地で集客に成功している宿泊施設の例として、ネット予約を活用している事例が多くなってきた。だからネット予約を導入しろということではなく、そういった社会の流れや時代の変化に的確に対応していかないと後手後手に回ってしまうということを申し上げたい（藤崎）
- ・鬼怒川の良さをのばし、悪さ・不足点を改善する。役割分担に問題があるなら、それを改善する。主体的に動く組織がないなら、新たに作ることも考えられる（藤崎）
- ・自分たちでやるのではなく、努力している人たちが成功しやすい環境作り（補助や規制緩和といった形でのバックアップ）を行うという方法もあるのではないか（大勝）

しかし、誰かが成功しないと話にならないのではないか（阿久津）

- ・明日を語る会で実施したイベントも、時として影響力を疑問に感じることもある。集客に結びついているか、まちづくりにどのような好影響を与えているかが実感できない（星）
- ・地域の人のつながりを形成する、他の人々への活動PRなどの効果が重要なのではないか（阿久津）
- ・集客目的のイベントではなく、たまたま来たお客さんにイベントを楽しんでもらうという視点が欠けていたのではないか。来ている人ひとりひとりに告知がなされていない。町内に告知を徹底させて、内部改革を図ることが先決ではないか（高橋）
- ・一人一人が営業マンにならなければいけない（阿久津）
- ・今までの活動の成果で、明日を語る会が徐々に地域に認知されてきているように思う。今までは観光業に携わっていない人は町のイベントのことなど知らなかったが、現在は改善されている（山口）
- ・宿泊客だけでなく、通過客や立ち寄り客を大事にする姿勢も重要である（高橋）  
（4月以降の当面の展開について）
- ・声をかけて、すぐにやろうという真剣な人はどのくらいいるか（藤崎）  
鬼怒川だけでは旅館組合青年部 10 人、明日を語る会 10 人に加えて 10 人の、合計 30 人くらいか（筒井）  
観光関連業者以外の人にも参加してもらう必要があるのではないか（高橋）
- ・最初は声を広くかけ、最終的には本当にやる気のある人だけ 10 人くらいが残って、1 年ぐらいの時間をかけてやれば、相当な成果が上がると思う（藤崎）
- ・ただ、まちづくりのキーマンになって成果が上がってくると軋轢が起こったり、嫌われたり、様々な弊害が生じる。観光カリスマに選ばれた人も、当初は大変な思いをしてきている人が多い。まちづくりに取り組む組織は内部崩壊で失敗するケースが多く、そういう面を行政が支えなければならぬ。しかしその反面、そのプレッシャーを糧に成果を上げなければならぬ。しかし、そうやって残ってきた人は「観光カリスマ」などになっている（藤崎）
- ・今後はとりあえず、勉強会等の形で講演会を行い、その話を聞いて参加しようという意思を表明する人を集めてはどうかと思う。さらに勉強会を通じて、実際に考え、動ける人を選んでいくことが必要だと思う（藤崎）  
次回は4月以降に、改めて日程を調整して最初の講演会などを企画したい（高橋）

（以上）